

昭和45年度

地力保全基本調査成績書

〔日高山脈東山麓地域 上川郡新得町・河東郡鹿追町〕

北海道立中央農業試験場

(24)

序

現状における土地生産力は諸種の土壤的阻害要因によつて充分にその地力を發揚できない場合が少くないのみならず、一方では剥脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壤調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和45年度に行なつた11地域23市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し當農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和46年3月

北海道立中央農業試験場

場長 和田忠雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ 100 ha 以上の集団になつてゐる農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

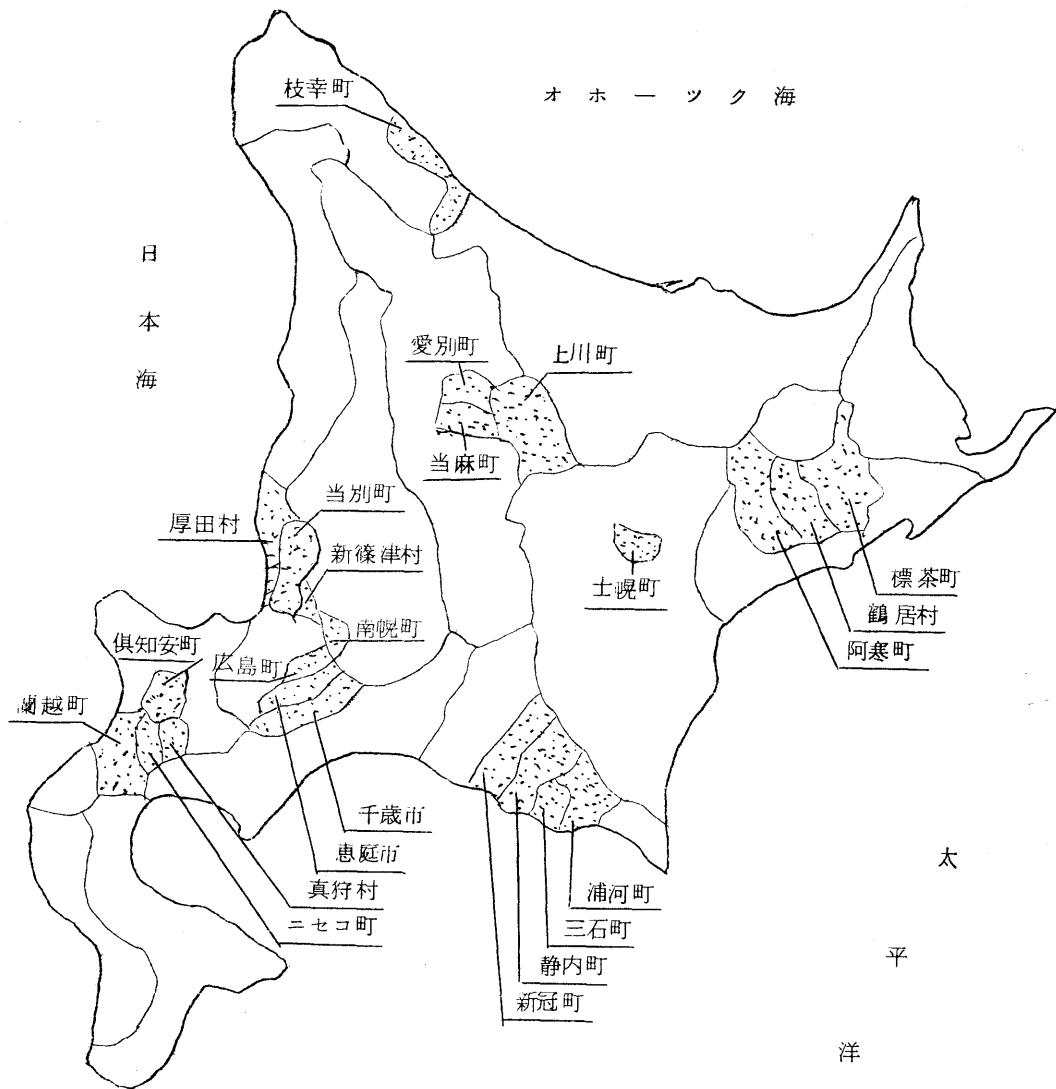
1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壌統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部第3課）による。
3. 土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	森 哲 郎
土壌改良科	科 長	後 藤 計 二
	第 1 係 長	小 林 庄 司
研 究 職 員	水 元 秀 彰	
"	伊 東 輝 行	
"	木 村 清	
"	松 原 一 美	
第 2 係 長	山 口 正 栄	
研 究 職 員	小 林 茂	
"	宮 脇 忠	
"	山 本 靖 雄	
"	高 橋 市 十 郎	
"	上 坂 晶 司	
十 勝 農 試	菊 地 晃 二	
"	関 谷 長 昭	
"	横 井 義 雄	
北 見 農 試	秋 山 喜 三 郎	
上 川 農 試	野 崎 輝 義	
"	土 居 晃 郎	
天 北 農 試	奥 村 純 一	

1. 調査地域一覧

調査地域名	該当市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畠	水田	畠	水田	畠
石狩川下流	当別町	4,969	4,748	—	—	4,969	4,748
	新篠津村	3,831	1,017	—	—	3,831	1,017
石狩北部沿海	厚田村	617	1,605	—	—	617	1,605
石狩川下流	南幌町	4,688	1,030	—	—	4,688	1,030
羊蹄山麓	俱知安町	1,263	3,153	—	—	1,263	3,153
	真狩町	276	3,788	—	1,700	276	2,088
	ニセコ町	563	3,537	—	2,900	0	637
ニセコ山麓	蘭越町	2,188	2,104	—	—	2,188	2,104
日高沿海	新冠町	676	5,282	—	—	676	5,282
	静内町	948	3,353	—	—	948	3,353
	浦河町	730	2,917	—	—	730	2,917
	三石町	1,188	1,245	—	—	1,188	1,245
阿寒	阿寒町	20	2,897	—	—	20	2,897
	鶴居村	0	2,223	—	—	0	2,223
石狩南部	千才市	939	3,465	—	—	939	3,465
	恵庭市	3,161	2,413	—	—	3,161	2,413
	広島町	1,018	2,063	—	—	1,018	2,063
上川中部	上川町	851	665	—	—	851	665
	愛別町	1,803	669	—	—	1,803	669
	当麻町	4,071	863	—	—	4,071	863
枝幸、雄武	枝幸町	0	2,558	—	—	0	2,558
弟子屈	標茶町	0	10,150	—	—	0	10,150
上士幌	士幌町	13	11,680	—	1,500	13	10,180
合計		33,813	73,425	—	6,100	33,250	67,325

調査地区位置図



1. 地区の概況

1) 位置および調査面積

(1) 位置

北海道上川郡新得町・河東郡鹿追町

(2) 調査面積 (ha)

都 市 町 村 名	農 地 面 積		調査対象面積 普 通 畑
	普 通 畑	畠	
上 川 郡 新 得 町	6.464		6.464
河 東 郡 鹿 追 町	14,790		14,790

2) 気候

本地区は、十勝中央部よりは日高山脈、大雪山系に近く位置するため気候は悪い。冬季は低温が著しく、かつ積雪量が少ないため土壤凍結が深く、春季融雪、融凍時に水蝕が発生する。また、4月下旬、5月中は季節風による土壤の飛散があり、地力の低下および農作物に被害をおよぼしている。

新得町における気象は次の通りである。

月別		4	5	6	7	8	9	10	11	年平均
気 温(°C)	平 均	5.1	11.2	15.1	19.8	21.2	17.7	9.5	2.7	7.0
	最高 平 均	11.1	18.3	21.2	25.2	26.4	24.3	15.0	7.5	—
	最 低 平 均	-0.3	4.1	9.0	14.3	16.0	11.1	3.9	-2.2	—
降 水 量(mm)	平 均	63	77	106	127	134	146	84	63	993
	1 日最多量	51	55	61	103	85	118	60	64	—

帯広測候所資料 (20ヶ年平均)

3) 土地条件

(1) 地形

地区の中央部には、古い扇状地である美蔓台地および佐幌台地が分布している。また西部は日高山脈からの新しい扇状地が、東部は然別の火碎流がある。本地区を流れる佐幌川、然別川、十勝川に沿つては、2~3段からなる新しい段丘が発達している。

(2) 地質

高位段丘は洪積期・沖積期の火山灰が厚く堆積している。一部受蝕されているところは下層の洪積土（燧灰質堆積物）が作土直下に出現する。

また低位段丘は火山灰が20cm内外で薄く、下層は冲積土からなる。

日高山脈からの扇状地は花崗岩を母材とし、然別からの火碎流は安山岩を母材としている。

2. 土壤の類型区分および説明

1) 土壤統一覧および土壤区一覧

(1) 土壤統一覧

土壤統名	色層序	腐植層序	礫砂礫層 礫を混在する砂層	酸化 沈積物	土 性		堆積 様式	母 材
					表土	次 層		
東瓜幕	YR/YR	表層腐植層 なし	なし	なし	粘質	強粘質	風 積 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結火成岩
上幌内	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	粘質	強粘質	風 積 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結火成岩
美蔓	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	壤質	壤 質	風 積 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結火成岩
北新得	YR/YR	表層腐植層 なし	なし	なし	粘質	強粘質	風 積 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結火成岩
新然別	YR/YR	表層腐植層 なし	なし	あり	粘質	粘 質	風 檢 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結水成岩
北鹿追	YR/YR	表層腐植層 なし	なし	あり	壤質	強粘質	風 積 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結水成岩
下幌内	YR/YR	表層多腐植層	なし	あり	粘質	強粘質	風 積 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結水成岩
佐幌	YR/YR	表層腐植層	なし	あり	粘質	強粘質	風 積 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結水成岩
通明	YR/YR	全層多腐植層	なし	なし	壤質	壤 質	風 積 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結火成岩
南新得	YR/YR	表層腐植層 なし	あり	なし	粘質	粘 質	風 積 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結火成岩
新得	YR/YR	表層多腐植層	なし	なし	粘質	強粘質	風 檢 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結火成岩
広内西	YR/YR	全層多腐植層	あり	あり	粘質	強粘質	風 積 洪積世堆積	非固結火成岩 非固結火成岩
笛川	YR/YR	表層腐植層	あり	なし	粘質	粘 質	風 積 水 積	非固結火成岩 非固結水成岩
西瓜幕	YR/YR	表層腐植層 なし	あり	なし	粘質	粘 質	風 積 水 積	非固結火成岩 非固結水成岩
屈足	YR/YR	表層腐植層 なし	なし	あり	粘質	壤 質	風 檢 水 積	非固結火成岩 非固結水成岩
下鹿追	YR/YR	表層腐植層	あり	なし	粘質	強粘質	風 積 水 積	非固結火成岩 非固結水成岩
中幌追	YR/YR	表層腐植層 なし	あり	なし	壤質	—	風 檢 集 檢	非固結火成岩 ヨシ
瓜幕	YR/YR	表層多腐植層	あり	あり	粘質	強粘質	風 積 水 積	非固結火成岩 非固結水成岩
紅葉	YR/YR	表層腐植層 なし	あり	なし	砂質	砂 質	水 積 水 積	非固結水成岩 非固結水成岩
屈足北	YR/YR	表層多腐植層	なし	あり	壤質	壤 質	風 積 崩 積	非固結火成岩 半固結水成岩

(2) 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式	畠面積 (ha)	備考
東瓜幕一東瓜幕	■ f ■ d pwnise	2,359	
上幌内一上幌内	■ fn ■ pse	2,997	
美蔓一美蔓	■ fn ■ (w)s e	3,549	
北新得一北新得	■ fn ■ (w)s e	340	
新然別一新然別	■ fns ■ twie	659	
北鹿追一北鹿追	■ d w f i ■ tpna	170	
下幌内一下幌内	■ wf ■ pn	489	
佐幌一佐幌	■ wf ■ tpna	808	
通明一通明	■ wf ■ tpna	701	
南新得一南新得	■ fn ■ td pse	1,211	
新得一新得	■ fn ■ pwse	213	
広内西一広内西	■ wf n ■ d pise	213	
笹川一笹川	■ d fne	2,062	
西瓜幕一西瓜幕	■ d i l l t w f ne	1,318	
屈足一屈足	■ wf n ■ pa	1,231	
下鹿追一下鹿追	■ d w n i l l pfa	680	
中鹿追一中鹿追	■ w ■ dnial ■ fe	43	
瓜幕一瓜幕	■ wf a l l d pne	1,552	
紅葉一紅葉	■ d w) f n	638	
屈足北一屈足北	■ f ■ wnase	21	

2) 土壤統別説明

東瓜幕統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外、土性はSCLである。腐植含量7.8%、色は10YRで彩度2、明度2である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度1.5で疎、PH(H₂O) 5.92、

下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ 12 cm内外、土性は L i C である。腐植を欠き、色は 10 Y R で彩度 6、明度 4 である。細円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度 1.5 で疎、P H (H₂O) 5.95、下層との境界判然である。

第3層は厚さ 14 cm内外、土性は L i C である。腐植を欠き、色は 10 Y R で彩度 6、明度 5 である。細小円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度 2.2 で中、P H (H₂O) 5.91 下層との境界明瞭である。

第4層は 23 cm 内外、土性は S L である。腐植を欠き、色は 10 Y R で彩度 4、明度 4 である。細小円礫あり、ち密度 2.7 で密、P H (H₂O) 6.10 である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑 A692

第1層	0 ~ 25 cm	腐植に富む、黒色 (10 Y R 2/2) の SCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度 1.5 で疎、P H (H ₂ O) 5.92、層界明瞭。
第2層	25 ~ 37 cm	腐植を欠き、黄褐色 (10 Y R 4/6) の L i C、細円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度 1.5 で疎、P H (H ₂ O) 5.95、層界判然。
第3層	37 ~ 51 cm	腐植を欠き、黄褐色 (10 Y R 5/6) の L i C、細小円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度 2.2 で中、P H (H ₂ O) 5.91、層界明瞭。
第4層	51 ~ 77 cm	腐植を欠き、黄褐色 (10 Y R 4/4) の S L、細小円礫あり、ち密度 2.7 で密、P H (H ₂ O) 6.10。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒径組成 %				土性	現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 25	58	0	—	—	—	—	SCL	—	—	4.81	0.42	11	7.81
2	25 ~ 37	6.6	2.6	124	14.1	39.4	34.0	L i C	—	—	—	—	—	—
3	37 ~ 51	82	2.6	122	16.8	37.8	33.0	L i C	—	—	—	—	—	—
4	51 ~ 77	6.3	22.0	552	23.5	122	9.2	SL	—	—	—	—	—	—

層位	P H		置換酸 度 Y ₁	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸 吸收係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	K CL			Ca O	Mg O	K ₂ O			
1	5.92	4.78	0.63	23.4	9.8	0.8	0.3	41.8	1.690	17.0
2	5.95	5.10		15.7	5.9	0.1	0.3	37.4	1.940	0.2
3	5.91	5.19	0.25	14.4	8.6	2.0	0.1	59.8	1.860	tr
4	6.10	5.44	0.25	7.4	1.7	1.6	0.0	23.2	1.450	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、美蔓統、通明統、北鹿追統があるが、美蔓統とは堆積様式が異なるため、通明統および北鹿追統とは堆積様式、腐植層序が異なるため本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積／洪積堆積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況 主として、菜豆、てん菜、牧草を作付けている。

E 農業上の留意事項

腐植含量が少ないので、有機物の施用が必要である。

F 分布 北海道河東郡鹿追町

調査および記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
東瓜幕	■ f ■ d w n i s e

② 土壤区別説明

東瓜幕一 東瓜幕

示性分級式 (焰)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
土壤	効土	耘表表地	透保濕然保固土	分置	有微酸	有物	增地
土産	土	土	土	層	換々効	害理	冠す
力の	土の	風の	肥の	性態量	害物的	水ベ	斜為
可の層	の土	の風	肥定塩	石苦加磷	質害のり	然の	水風
能の礫	の乾	水水潤	基	灰土里酸要	の障	の	蝕
性厚	難土着の乾	沃	状豊含	有害	危の	傾傾	蝕蝕
等深含	性硬	性度	力態	素度	危險	方	
級ささ量易	性湿	性度	力量	無性度	度	斜向斜	度性
	t d g p	w	f	n	i	a	s e
	I	II	I	2 1 1 (II)	1 2 1	■ 1 3 2	II 1 2 2 1 2 2
	I	II	I	I	1 2	I 1 1	II 2 1 1 II 1 2 2
簡易分弓式 ■ f ■ d w n i s e							

A 土壤区の特徴

この土壤区は東瓜幕統に属する表土の厚さは25cm内外で深い。有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は、粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土中、加里中、有効態磷酸多である。特殊な障害性なし

B 植生および利用状況

主として、菜豆、てん菜、牧草を作成している。

C 地力保全上の問題点

心土が不良なアロフェン質火山灰土のため、有機物および適量の改良資材を施用して漸次深耕する。

防風林の完備、保全耕作および塩基、磷酸の補給が必要である。

D 分 布 北海道河東郡鹿追町

記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

日付 昭和46年3月31日

上 嘴 内 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ22cm内外、土性はCLである。腐植含量13.9%、色は10YRで彩度1、明度1である。礫なく発達弱度の塊状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、PH(H₂O)5.64、下層との境界判然である。

第2層は厚さ13cm内外、土性はLiCである。腐植含量14.0%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく発達弱度の塊状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、PH(H₂O)5.60、下層との境界判然である。

第3層は厚さ10cm内外、土性はLiCである。腐植を欠き、色は10YRで彩度6、明度5である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度1.8で疎、PH(H₂O)5.59、下層との境界半然である。

第4層は4.5cm以下、土性はCLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度8、明度5である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度2.3で中、PH(H₂O)5.73である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑No.25

第1層	0~22cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 1/1)のCL、礫なく発達弱度の粒
-----	--------	-----------------------------------

		状、塊状構造あり、細孔あり。 ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O) 5.64、層界判然。
第2層	22～35cm	腐植に頗る富む、灰褐色(10YR 3/2)のLIC、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり。ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O) 5.60、層界判然。
第3層	35～45cm	腐植を欠き、黄褐色(10YR 5/6)のLIC、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり。ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O) 5.59、層界判然。
第4層	45cm～	腐植を欠き、黄褐色(10YR 5/8)のCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり。ち密度2.3で中、PH(H ₂ O) 5.73である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	機含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～22	6.8	0	31.4	23.4	22.2	23.1	CL	—	—	8.64	0.69	13	13.87
2	22～35	9.9	0	12.9	19.1	28.0	40.1	LIC	—	—	8.99	0.64	14	13.96
3	35～45	8.3	0	7.7	26.4	37.2	28.7	LIC	—	—	—	—	—	—
4	45～	9.3	0	23.5	33.2	24.3	19.1	CL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷 吸收係数	有効態 磷 酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.64	4.42	1.88	36.9	11.5	0.4	0.5	31.1	2000	3.2
2	5.60	4.30	3.88	42.6	5.3	0.6	0.7	12.5	2320	tr
3	5.59	4.52	1.38	20.0	2.6	0.4	0.5	13.1	2250	tr
4	5.73	4.84	0.63	34.7	15.1	2.5	0.1	43.5	2170	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、美蔓統、佐幌統があるが堆積様式が異なるため本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積／洪積世堆積

B 地形 波状地形

C 気候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として、てん菜、牧草、馬鈴薯を作付けている。

E 農業上の留意事項

有機物の投入、保全耕作

F 分 布 北海道河東郡鹿追町、上川郡新得町

調査および記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
上幌内	ⅡfnⅡpse

② 土壌区別説明

上幌内 - 上幌内

示性分級式(畳)

土壌表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵													
生効土	表表表透保湿	保固土置	有微酸	有物	増地	自傾入	侵耐耐													
産土	松木土の土の風	然層分換の性態量	効害理	冠す																
力	土の土の風	の性態量	物的	水べ	然斜為	水風														
可	の層の乾の水水潤肥肥定	塩の石苦加磷	害質害	のり		の	蝕													
能	能の粘土土	基灰土里酸要	の障	危の	傾傾	蝕蝕														
性	性の土着の土着の	含含	有害	危險	方															
等	等厚含難硬乾沃	状狀																		
級	深性性さ性性度	力力能量	素度	無性度度	斜向斜	度性性														
ささ	量易	湿	度	否	性	性	斜													
t d g p	w	f	n	i	a	s	e													
I	I	I	2 1 1	I	1 2 1	1 4 3	I	1 3 1 2 2 2	I	1 1 1	I	1 1 1	I	2	—	—	I	2 1 1		
簡略分級式	ⅡfnⅡpse																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は上幌内統に属する。表土の厚さは22cm内外で深い、有效土層は100cm以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力大、土層の塩基状態不良である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土少、加里多、有効態磷酸中である。

B 植生および利用状況

主として、てん菜、牧草、馬鈴薯を作付けている。

C 地力保全上の問題点

心土がローム質火山灰であるので、これを活用するために有機物および改良資材を伴う混層耕が望ましい。防風林の完備、有機物の投入、塩基、磷酸の補給が必要である。

D 分 布 北海道河東郡鹿追町、上川郡新得町

記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

日 付 昭和46年3月31日

美 蕤 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ23cm内外、土性はS Lである。腐植含量6.9%、色は10YRで彩度2、明度3である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度2.0で中、PH(H₂O)5.53、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ4cm内外、土性はS Lである。腐植含量8.4%、色は10YRで彩度1、明度1である。疎なく発達弱度の平板状構造あり、孔隙なし、ち密度2.1で中、PH(H₂O)5.56、下層との境界明瞭である。

第3層は厚さ7cm内外、土性はC Lである。腐植含量5.2%、色は10YRで彩度3、明度3である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.0で中、PH(H₂O)5.51、下層との境界明瞭である。

第4層は厚さ16cm内外、土性はL i Cである。腐植含量6.7%、色は10YRで彩度4、明度3である。疎なく発達弱度の塊状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で疎、PH(H₂O)5.58、下層との境界判然である。

第5層は厚さ10cm内外、土性はL i Cである。腐植を欠き、色は10YRで彩度4、明度4である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度1.7で疎、PH(H₂O)5.68、下層との境界判然である。

第6層は厚さ12cm内外、土性はL i Cである。腐植を欠き、色は10YRで彩度6、明度5である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度1.4で疎、PH(H₂O)5.80、下層との境界判然である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑No.10

第1層	0～21cm	腐植に富む、灰褐色(10YR 3/2)のS L、疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度2.0で中、PH(H ₂ O)5.53、層界明瞭。
第2層	21～27cm	腐植に富む、黒色(10YR 1/1)のS L、疎なく発達弱度の平板状構造あり、孔隙なし。ち密度2.1で中、PH(H ₂ O)5.56、層界明瞭。

第3層	27～43cm	腐植に富む、黃褐(10YR3/3)のCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度2.0で中、PH(H ₂ O) 5.51、層界明瞭。
第4層	43～54cm	腐植に富む、黃褐(10YR3/4)のLiC、礫なく発達弱度の塊状粒状あり、細孔あり。ち密度1.6で疎、PH(H ₂ O) 5.58、層界判然
第5層	54～64cm	腐植を欠き、黃褐(10YR4/4)のLiC、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり。ち密度1.7で疎、PH(H ₂ O) 5.68、層界判然。
第6層	64～86cm	腐植を欠き、黃褐(10YR5/6)のLiC、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり。ち密度1.4で疎、PH(H ₂ O) 5.80である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 γ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～21	3.5	0	45.0	29.8	17.4	7.8	SL	—	—	41.4	0.32	1.3	6.89
2	21～27	4.1	0	44.0	27.6	23.8	4.7	SL	—	—	5.07	0.34	1.5	8.38
3	27～43	6.3	0	18.4	32.6	25.6	23.3	CL	—	—	3.20	0.29	1.1	5.17
4	43～54	10.3	0	14.1	12.2	28.7	45.0	LiC	—	—	43.0	0.38	1.1	6.66
5	54～64	12.3	0	14.0	13.2	31.0	41.7	LiC	—	—	—	—	—	—
6	64～86	8.5	0	10.1	12.5	34.8	42.7	LiC	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷吸收係数	有効態 磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.53	4.72	0.63	19.1	9.5	0.3	0.1	5.00	1250	3.3
2	5.56	4.80	0.63	22.3	13.0	0.3	0.0	5.84	1350	tr
3	5.51	4.78	0.63	17.2	5.2	0.0	0.0	3.04	1790	tr
4	5.58	4.96	0.50	25.6	10.0	0.8	0.1	39.1	2210	tr
5	5.68	5.30	0.25	26.9	9.2	0.6	0.1	34.3	2330	tr
6	5.80	5.39	0.25	14.4	6.0	1.9	0.2	41.7	1930	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、新然別統、東瓜幕統、上幌内統があるが堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積／供積世堆積

B 地形 波状地形

C 気候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として、菜豆、てん菜、馬鈴薯を作付けている。

E 農業上の留意事項

防風林の完備、有機物の施用、保全耕作、縁作帯の設置

F 分 布 北海道河東郡鹿追町、七川郡新得町

調査および記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
美蔓	■ f n (w)s e

② 土壤区別説明

美蔓—美蔓

示性分級式 (畳)

土壌	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生産力の可能性等級	効土の土の風の層の燥の土の厚さのささ	表土	表土の土の風の層の乾の水潤肥定塩の石苦加磷基灰土里酸要含	耕保濕然分換の性態量	保固土層分換の性態量	置換の性態量	有微酸効害理物的害質障の有害	增地冠ベリ水りの危険
t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
■ I I I I I 1 1 1 ■) 1 2 1 ■ 2 3 2 ■ 1 3 3 2 2 2 I 1 1 I 1 1 ■ 2 1 1 ■ 2 1 2								
簡略分級式	■ f n (w)s e							

A 土壤区の特徴

この土壤区は美蔓統に属する。表土の厚さは23cm内外で深い。有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は壤質で、耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土少、加里少、有効態磷酸中である。

B 植生および利用状況

主として、菜豆、てん菜、馬鈴薯を作付けている。

C 地力保全上の問題点

心土が不良なアロフエン質火山灰土のため、有機物および適量の改良資材を施用して漸次深耕する。塩基、磷酸の補給が必要である。

D 分 布 北海道河東郡鹿追町、上川郡新得町

記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)
日 付 昭和46年3月31日

北 新 得 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、土性はCLである。腐植含量7.5%、色は10YRで彩度3、明度2である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.0で中、pH(H₂O) 5.55、下層との境界判然である。

第2層は厚さ9cm内外、土性はLiCである。腐植含量4.7%、色は10YRで彩度6、明度5である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔含む、ち密度2.1で中、pH(H₂O) 5.65、下層との境界判然である。

第3層は厚さ25cm内外、土性はLiCである。腐植を欠き、色は10YRで彩度8、明度6である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔含む、ち密度2.1で中、pH(H₂O) 5.86、下層との境界漸変である。

第4層は厚さ40cm内外、土性はCLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度8、明度6である。疎なく発達中度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.7で密、pH(H₂O) 6.05、である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道上川郡新得町 試坑No.1 13

第1層	0～18cm	腐植に富む、黄褐色(10YR 2/3)のCL、疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度2.0で中、pH(H ₂ O) 5.55、層界判然。
第2層	18～27cm	腐植を含む、黄褐色(10YR 5/6)のLiC、疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔含む。ち密度2.1で中、pH(H ₂ O) 5.65、層界判然。
第3層	27～52cm	腐植を欠き、黄褐色(10YR 6/8)のLiC、疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔含む。ち密度2.1で中、pH(H ₂ O) 5.86、層界

		漸変
第4層	52～92 cm	腐植を欠き、黄褐色（10YR 6/8）のCL、砾なく発達中度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度27で密、PH(H ₂ O) 6.05である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	機含量	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～18	6.9	0	32.0	18.3	24.9	24.9	CL	—	—	4.64	0.42	11	7.45
2	18～27	8.8	0	16.2	17.1	34.5	32.3	LiC	—	—	2.99	0.27	11	4.70
3	27～52	6.1	0	20.4	18.2	29.5	31.8	LiC	—	—	—	—	—	—
4	52～92	6.5	0	34.2	17.1	28.4	20.2	CL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.55	4.85	0.75	20.1	8.2	1.0	0.3	40.7	1960	1.9
2	5.65	4.04	0.50	18.2	6.2	0.3	0.2	34.3	2230	0.9
3	5.86	5.19	0.50	9.5	4.2	1.3	0.2	43.8	1770	tr
4	6.05	5.40	0.50	6.8	2.7	1.8	0.1	39.2	1850	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に類似する統としては、美蔓統があるが、下層土が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積／供積世堆積

B 地形 波状地形

C 气候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993 mm

D 植生および利用状況

主として牧草、てん菜を作付けている。

E 農業上の留意事項

有機物の投入

F 分布 北海道上川郡新得町

調査および記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
北新得	■ f n ll(w)s e

② 土壤区別説明

北新得一 北新得

示性分級式 (畳)

土壌	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生産力の可	効土の層の乾燥の粘土の厚さの等級	土壌の風化の難易度	表土の透湿性	保固土の然然の性状	置換基の量	有効酸の量	有物害の質害の危険度	増地冠する斜面の傾向
能性等級	硬乾沃豊	性度性度	湿润肥定塩の水	肥料定塩の石	苦加磷の基	加磷の灰土	酸要の里酸要	耐水性の為害の危險度
表土の土性	土着の土の風化の性状	耕起の性状	耕起の水潤肥定塩の性状	耕起の肥料定塩の性状	耕起の基の性状	耕起の灰土の性状	耕起の里酸要の性状	耕起の為害の危險度
土の土の風化の性状	耕起の土の土性	耕起の土の土性	耕起の土の土性	耕起の土の土性	耕起の土の土性	耕起の土の土性	耕起の土の土性	耕起の土の土性
t d g p	w	f	n		i	a	s	e
I I I I 2 1 1 (II) 1 2 1 I 2 3 2 I 1 2 2 3 2 2 I 1 1 I 1 1 II 2 —— I 1 1 2								
簡略分級式				III f n II w s e				

A 土壤区の特徴

この土壤区は北新得統に属する。表土の厚さは 27 cm 内外で深い、有効土層は 100 cm 以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸土中、置換性石灰多、苦土中、加里中、有効態磷酸少である。

B 植生および利用状況

主として、牧草、てん菜を作付けている。

C 地力保全上の問題点

心土が不良なアロフエン質火山灰土であるので有機物および適量の改良資材を投入後漸次深耕する。防風林の完備、塩基、磷酸の補給が必要である。

D 分 布 北海道上川郡新得町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和46年3月31日

新然別統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植含量9.0%、色は10YRで彩度2、明度2である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度1.9で中、PH(H₂O)5.55、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ3cm内外、土性はCLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度4、明度4である。疎なく発達弱度の平板状構造あり、孔隙なし、ち密度1.9で中、PH(H₂O)5.69、下層との境界明瞭である。

第3層は厚さ11cm内外、土性はHCである。腐植含量6.6%、色は10YRで彩度2、明度3である。疎なく発達弱度の塊状、細塊状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、PH(H₂O)5.62、下層との境界判然である。

第4層は29cm以下、土性はSiCである。腐植を欠き、色は10YRで彩度6、明度5である。細円疎あり、均質連結状構造あり、細孔あり、斑鉄あり、ち密度2.5で密、PH(H₂O)5.89である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑No.6

第1層	0～15cm	腐植に富む、黒色(10YR 2/2)のCL、疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度1.9で中、PH(H ₂ O)5.55、層界明瞭。
第2層	15～18cm	腐植を欠き、黄褐色(10YR 4/4)のCL、疎なく発達弱度の平板状構造あり、孔隙なし、ち密度1.9で中、PH(H ₂ O)5.69、層界明瞭。
第3層	18～29cm	腐植に富む、灰褐色(10YR 3/2)のHC、疎なく発達弱度の塊状、細塊状、粒状構造あり、細孔あり。ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O)5.62層界判然。
第4層	29cm～	腐植を欠き、黄褐色(10YR 5/6)のSiC、細円疎あり、均質連結状構造あり、細孔あり、斑鉄あり。ち密度2.5で密、PH(H ₂ O)5.89である。

代表的断面の分析成績

層位 採取部位 cm	水分 %	機含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1 0～15	4.7	0	27.1	28.8	27.5	16.6	CL	-	-	5.50	-	-	9.03
2 15～18	5.2	0	22.6	30.9	30.5	16.0	CL	-	-	-	-	-	-
3 18～29	6.1	0	9.6	13.8	26.7	49.9	HC	-	-	4.01	0.31	13	6.56
4 29～	2.6	2.6	11.6	11.6	47.1	29.7	SiC	-	-	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基 置換容量 m e /100g	置換性塩基 me /100g			石灰 飽和度 %	磷酸 吸收係数	有效態 磷酸 mg /100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.55	4.57	1.00	26.1	10.8	0.7	0.2	41.4	1680	25
2	5.69	4.72	0.63	21.4	7.0	0.9	0.1	32.5	1850	tr
3	5.62	4.39	1.63	37.0	15.2	2.9	0.3	41.2	1710	tr
4	5.89	4.21	1.25	26.3	8.3	1.1	0.2	31.6	680	tr

A—2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては美蔓統があるが、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A—3 母材 非固結火成岩／非固結水成岩

A—4 堆積様式 風積／洪積世堆積

B 地形 傾斜地

C 気候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として、牧草、てん菜を作付けている。

E 農業上の留意事項

有機物の投入、保全耕作

F 分布 北海道河東郡鹿追町

調査および記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
新然別	Mfns II twie

② 土壤区別説明

新然別—新然別

示性分級式(畠)

土壤	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生産力の可能性等級	効土の層の厚さ	土の風乾性の含水量	表土の保濕度	土壌の性状	固土置換の性質	有機酸の量	有害物質の害質	地盤の増加と冠水
土の層の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量
土の層の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量
土の層の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量	土の風乾性の含水量
t a g p	w f n				i a s			e
II 1 1 1 2 1 1	II 2 2 2	III 1 3 2	III 1 2 2 2 2 2	II 1 2 1 1 1	III 3 --	II 2 2 1		
簡略分級式	II f ns	II tw ie						

A 土壤区の特徴

この土壤区は新然別統に属する。表土の厚さは 15cm 内外で浅い。有効土層は 100cm 以上で深い。表土の土性は枯質であるが、耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土中、加里中、有効態磷酸中である。

B 植生および利用状況

主として、牧草、てん菜を作付けている。

C 地力保全上の問題点

傾斜地であるため縁作帯の設置および有機物の投入、塩基、磷酸の補給が必要である。

D 分布

北海道河東郡鹿追町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日附 昭和 46 年 3 月 31 日

北鹿追統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第 1 層は厚さ 12cm 内外、土性は L である。腐植含量 6.5%、色は 10 YR で彩度 1、明度 2 である。疎なく発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度 1.9 で中、PH (H₂O) 5.03、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ5cm内外、土性はL i Cである。腐植含量9.0%、色は10YRで彩度4、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.9で中、PH(H₂O)5.21、下層との境界明瞭である。

第3層は厚さ9cm内外、土性はH Cである。腐植含量12.7%、色は10YRで彩度1、明度1である。礫なく発達弱度の粒状、細粒状、塊状構造あり、細孔を含む、ち密度2.0で中、PH(H₂O)5.08、下層との境界判然である。

第4層は厚さ5cm内外、土性はH Cである。腐植含量4.1%、色は10YRで彩度3、明度2である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.0で中、PH(H₂O)5.38、下層との境界判然である。

第5層は厚さ16cm内外、土性はL i Cである。腐植を欠き、色は2.5Yで、彩度6、明度6である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、斑鉄あり、ち密度2.5で密、PH(H₂O)5.71、下層との境界漸変である。

代表的断面形態

所在地 北海道河東郡鹿追町 試験No.67

第1層	0～13cm	腐植に富む、黒色(10YR 2/1)のL i C、礫なく発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし。ち密度1.9で中、PH(H ₂ O)5.03、層界明瞭
第2層	13～18cm	腐植に富む、黄褐(10YR 3/4)のL i C、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度1.9で中、PH(H ₂ O)5.21、層界明瞭。
第3層	18～27cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 1/1)のH C、礫なく発達弱度の粒状、細粒状、塊状構造あり、細孔含む。ち密度2.0で中、PH(H ₂ O)5.08、層界判然。
第4層	27～32cm	腐植を含む、黄褐(10YR 2/3)のH C、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり。ち密度2.0で中、PH(H ₂ O)5.38、層界判然。
第5層	32～48cm	腐植を欠き、黄褐(2.5Y 6/6)のL i C、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり。斑鉄あり、ち密度2.5で密、PH(H ₂ O)5.71。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	含水量 重量%	粘径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	7.4	0	20.7	43.3	24.5	11.5	L	—	—	4.10	0.77	5	6.54
2	13~18	7.0	0	30.2	18.6	25.2	25.9	LIC	—	—	5.60	0.53	11	8.99
3	18~27	8.4	0	6.8	6.5	27.5	59.2	HG	—	—	8.05	0.58	14	12.71
4	27~32	4.7	0	9.3	6.3	29.1	55.3	HG	—	—	2.52	0.20	13	4.14
5	32~48	4.5	0	11.0	19.4	30.2	39.5	LIC	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.03	4.28	2.73	45.5	14.9	1.0	0.2	3.28	1710	6.0
2	5.21	4.44	1.88	29.3	3.9	0.1	0.1	1.32	2250	0.2
3	5.08	4.01	1.188	56.2	11.4	0.5	0.3	2.02	1980	tr
4	5.38	4.10	5.25	26.9	10.4	1.8	0.2	3.87	1160	tr
5	5.71	4.45	1.00	16.9	9.7	3.4	0.3	5.78	930	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、美蔓統があるが、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積／洪積世堆積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として、牧草、てん菜を作付けている。

E 農業上の留意事項

心土破碎を行なう。

F 分布 北海道河東郡鹿追町

調査および記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
北鹿追	Mawf ill tpna

② 土壤区別説明

北鹿追一北鹿追

示性分級式 (畳)

土壌	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵												
生産力の可能性等	効土の層の粘性の難深さ	表土の風土の土の風土の着土の土の	表土の保濕性の層の水潤肥定の水肥基の状態の含水量の度	表土の保固土換の性態量の含	置換の有無酸鹽の石苦加磷基の含有量	有物害質害の無性度	増地冠水害の危險度	自傾入斜為の傾傾斜方												
表土の耕性	耕耘の風土の風土の風土の	表土の土の風土の土の風土の	表土の土の風土の風土の	表土の土の風土の風土の	表土の土の風土の風土の	表土の土の風土の風土の	表土の土の風土の風土の	表土の土の風土の風土の												
耕性	耕性	耕性	耕性	耕性	耕性	耕性	耕性	耕性												
等級	ささ量易	湿度	否	性	性	斜	蝕													
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e												
■	II	III	I	II	1 2 2	III	3 1 3	II	1 3 2	II	1 2 2 2 2 2	III	1 3	II	2 1 I	1	—	I	1 1 1	
簡略分級式	III	d w f i II	t p n a																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は北鹿追統に属する。表土の厚さは 13 cm 内外で浅い、有効土層は 33 cm 以下で浅い。表土の土性は液質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土中、加里中、有効態磷酸中である。

B 植生および利用状況

主として、牧草、てん菜を作付けている。

C 地力保全上の問題点

心土が盛層を呈するため、暗渠、明渠排水に心土破碎を伴つた方がよい。

酸性矯正、塩基、磷酸の補給も必要である。

D 分 布 北海道河東郡鹿追町

記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

日付 昭和 46 年 3 月 31 日

下幌内統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で、土性はCLである。腐植含量15.1%、色は10YRで彩度1、明度1である。疎なく発達弱度の粒状、細塊状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、PH(H₂O) 5.73、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で、土性はLICである。腐植含量22.9%、色は10YRで彩度1、明度1である。疎なく発達中度の粒状構造含む、細孔富む、ち密度15で疎、PH(H₂O) 5.30、下層との境界半然である。

第3層は厚さ18cm内外で、土性はCLである。腐植含量9.2%、色は7.5YRで彩度2、明度2である。疎なく発達中～弱度の粒状、塊状構造含む、細孔、小孔、中孔、大孔に富む、ち密度17で疎、PH(H₂O) 5.60、下層との境界漸変である。

第4層は厚さ36cm内外で、土性はSiCである。腐植を欠き、色は10YRで彩度3、明度7である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細、小孔含む、斑駁あり、ち密度23で中、PH(H₂O) 5.95、下層との境界漸変である。

第5層は84cm以下で、土性はCLである。腐植を欠き、色は25Yで彩度2、明度2である。疎なく均質連結状構造あり、細、小孔あり、斑駁あり、ち密度26で密、PH(H₂O) 6.35である。

代表的断面態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑No.161

第1層	0～20cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 1/1)のCL、疎なく発達弱度の粒状、細塊状構造あり、細孔あり。ち密度16で疎、PH(H ₂ O) 5.73、層界明瞭。
第2層	20～30cm	腐植に頗る富む、黒色(110YR 1/1)のLIC、疎なく発達中度の粒状構造含む。細孔富む。ち密度15で疎、PH(H ₂ O) 5.30 層界判然。
第3層	30～48cm	腐植に富む、黒色(7.5YR 2/2)のCL、疎なく発達中～弱度の粒状、塊状構造含む、細、小、中、大孔含む、ち密度17で疎、PH(H ₂ O) 5.60、層界漸変。
第4層	48～84cm	腐植を欠き、黄褐(10YR 7/3)のSiC、疎なく発達弱度の塊状構造あり、細、小孔含む。ち密度23で中、PH(H ₂ O) 5.95、層界漸変。
第5層	84cm～	腐植を欠き、灰色(2.5Y 2/2)のCL、疎なく均質連結状構造あり、細、小孔あり、ち密度26で密、PH(H ₂ O) 6.35。

代表的断面の分析成績

層位	彩取部位	水分%	礫含量重量%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率%	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	7.6	0	12.13	39.31	27.24	21.33	CL	7.82	—	9.49	0.68	1.4	15.1
2	20~30	12.1	0	7.17	19.38	39.52	33.94	LC	8.11	—	15.11	0.79	1.9	22.9
3	30~48	7.8	0	67.2	34.29	38.43	20.55	CL	7.62	—	5.77	0.37	1.5	9.2
4	48~84	5.6	0	4.09	19.08	46.30	30.53	SiC	9.80	—	—	—	—	0
5	84~	4.6	0	5.54	29.43	41.95	23.09	CL	9.81	—	—	—	—	0

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態 磷 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.73	4.60	1.48	3.25	14.0	2.8	0.3	43.1	1620	11.8
2	5.30	4.32	4.80	6.12	15.2	3.2	0.3	24.8	2130	6.8
3	5.60	4.30	4.51	3.28	9.5	3.2	0.3	28.7	1800	1.7
4	5.95	4.18	1.89	1.92	7.2	6.1	0.4	37.5	940	tr
5	6.35	4.30	0.95	2.00	6.8	6.5	0.4	34.0	900	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、美蔓統があるが堆積様式、腐植層序が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式 負積／洪積世堆積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 7.0 °C 年降水量 993 mm

D 植出および利用状況

主として牧草、てん菜、馬鈴薯を作付けている。

E 農業上の留意事項

心土破碎、酸性矯正

F 分布 北海道河東郡鹿追町

調査および記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
下隕内	■ w f II p n

② 土壤区別説明

下幌内 下酸内

示性分級式 (畠)

土壌表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生効土	土	透保濕	保固土	置換	有微酸	有物	増地
産土	土	土地	然	層分	換効	害理	冠す
力の	土の			の性	態量	物的	水べ
可の層	の風	乾の水	水潤肥	肥定塩の石苦加磷	害質	害のり	の蝕
能の疊	粘土	基	灰土里酸要	害障	害のり	傾傾	蝕蝕
性厚	土の	性含	有害	危險	危險	方	
等級	難着硬乾	沃	豊	無性	度度	斜向斜	度性性
	性性さ	性性度	力力感	素度	度度		
	深含		量				
	ささ	量易	湿	度	否	性	性
	t d g p	w	f	n	i	a	s e
■	I I I I	2 2 1	3 1 3	1 3 2	2 1 2 1 2 2	I 1 1 I	1 1 I —— I 1 1 1
簡略分級式	IIwf IIpn						

A 土壤区の特徴

この土壤区は下幌内系に属する。表土の厚さは30cm内外で深い。有効土層は80cm位でやや深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、保定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰中、苦土多、加里中、有効態磷酸多である。

B 植生および利用状況

主として、てん菜、牧草、馬鈴薯を作付けている。

C 地力保全上の問題点

心土が盛層を呈するため、暗渠、明渠排水に心土破碎を伴つた方がよい。

酸性矯正、塩基、磷酸の補給も必要である。

D 分布 北海道河東郡鹿追町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和46年3月31日

佐 帽 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm内外、土性はSCLである。腐植含量13.1%、色は10YRで彩度1、明度2である。疊なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度1.5で疎、PH(H₂O)5.33下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外、土性はLICである。腐植含量16.9%、色は10YRで彩度1、明度3である。疊なく発達弱度の塊状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度2.3で中、PH(H₂O)5.1~5、下層との境界判然である。

第3層は厚さ10cm内外、土性はHCである。腐植含量9.1%、色は10YRで彩度6、明度4である。疊なく均質連結状構造あり、細孔あり、ち密度2.8で密、PH(H₂O)4.95、下層との境界判然である。

第4層は厚さ18cm内外、土性はHCである。腐植含量6.3%、色は10YRで彩度8、明度6である。疊なく均質連結状構造あり、細孔あり、斑鉄あり、ち密度2.5で密、PH(H₂O)5.22、下層との境界漸変である。

第5層は厚さ19cm内外、土性はSCLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度2、明度5である。疊なく均質連結状構造あり細孔あり、グライ斑あり、ち密度2.5で密、PH(H₂O)5.29下層との境界漸変である。

第6層は70cm以下で、土性はSCLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度2、明度5である。疊なく均質連結状構造あり、細孔あり、ち密度2.5で密、PH(H₂O)5.40である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道上川郡新得町 試坑№126

第1層	0～15cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/1)のSCL、疊なく、塊状構造あり、孔隙なし。ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)5.33
第2層	15～23cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 3/1)のLIC、疊なく、塊状構造あり、細孔あり。ち密度2.3で中、PH(H ₂ O)5.15
第3層	23～38cm	腐植に富む、黄褐(10YR 4/6)のHC、疊なく、均質連結状構造あり、細孔あり。ち密度2.8で密、PH(H ₂ O)4.95
第4層	38～50cm	腐植に富む、黄褐(10YR 6/8)のHC、疊なく、均質連結状構造あり、細孔あり。斑鉄あり、ち密度2.5で密、PH(H ₂ O)5.22
第5層	50～62cm	腐植を欠き、灰褐(10YR 5/2)のSCL、疊なく、均質連結状構造あり、細孔あり。グライ斑あり、ち密度2.5で密、PH(H ₂ O)5.29
第6層	62～72cm	腐植を欠き灰褐(10YR 5/2)のSCL、疊なく均質連結状構造あり、細孔あり。ち密度2.5で密、PH(H ₂ O)5.40

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	砾含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率 %	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	7.1	0	31.2	28.9	18.4	21.4	SOL	—	—	8.19	0.70	12	13.13
2	15~23	10.3	0	8.2	26.9	20.8	43.9	LIC	—	—	10.90	0.94	12	16.85
3	23~38	10.0	0	5.4	6.0	19.9	68.6	HG	—	—	5.88	0.53	11	9.12
4	38~50	7.9	0	4.8	4.5	25.8	64.7	HG	—	—	3.99	0.31	13	6.33
5	50~62	7.3	0	32.6	35.0	19.3	12.9	SL	—	—	—	—	—	—
6	62~77	9.9	0	24.9	34.0	19.8	21.0	SOL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷 吸收係数	磷酸 有効態 磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.33	4.49	1.75	35.8	17.4	2.0	1.0	18.7	2570	15.7
2	5.15	4.10	7.50	54.2	14.2	0.8	0.7	27.2	2130	2.7
3	4.95	3.99	11.88	43.3	10.4	0.7	0.7	24.1	2130	2.0
4	5.22	4.00	11.50	32.8	10.9	1.4	0.3	33.1	1770	0.2
5	5.29	4.48	2.38	33.2	13.9	0.5	0.1	41.8	1880	4.5
6	5.40	4.55	1.50	39.0	10.7	1.0	0.1	27.4	2320	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、美蔓統があるが、腐植層序および母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積／洪積世堆積

B 地 形 平坦

C 気 候 年平均気温 7.0°C 半降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として、牧草、てん菜、とうもろこし、馬鈴薯が作付られている。

E 農業上の留意事項 酸性矯正

F 分 布 北海道上川郡新得町

調査および記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡級分級式
佐 峴	IIwfIItpna

② 土壤区別説明

佐 峴 一 佐 峴

示性分級式 (細)

土壤	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵																											
生産土の力	効土の層の可	表土の風の層の	表土の風の層の	保湿然の性の乾の水水潤肥定塩の石苦加磷基灰土里酸要	保固土然層分換の性態量	置換"効害理物的害質害のり	有微酸物的害物害のり	有物增地冠す水ベ然為																											
能の土着の	礫土の粘土	土の風の土の	土の風の土の	肥定塩の石苦加磷基灰土里酸要	肥定塩の石苦加磷基灰土里酸要	害理物的害物害のり	物的害物害のり	自傾人水風の																											
性厚等級	含難硬乾性深等級	性性さ量易	性性度度	沃力力態量	豐" "	有害危險無性度度	危險無性度度	侵耐耐水風の																											
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e																											
■	II	I	I	II	2	1	1	II	3	2	3	II	1	4	3	II	1	1	1	1	2	2	I	1	1	II	2	1	I	1	—	I	1	1	1
簡略分級式	IIwfIItpna																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は、佐峴統に属する。表土の厚さは23cm内外でやや深い。有効土層は100cm以上で深い。表土は土性は粘質で耕起、碎土が、やや困難である。保肥力大、固定力大、土層の塩基状態不良である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土多、加里多、有効態磷酸多である。

B 植生および利用状況

C 地力保全上の問題点

心土が粘質な洪積土であるので湿地を呈しているため、暗渠、明渠排水が必要である。酸性矯正、塩基、磷酸の補給も重要である。

D 分布 北海道上川郡新得町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日附 昭和46年3月31日

通 明 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A—1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はLである。腐植含量13.2%、色は10YRで彩度1、明度1である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度1.5で疎、PH(H₂O) 6.50、下層との境界判然である。

第2層は厚さ27cm内外、土性はLである。腐植含量13.0%、色は10YRで彩度1、明度3である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、PH(H₂O) 6.89、下層との境界明瞭である。

第3層は厚さ16cm内外、土性はL1Cである。腐植含量14.7%、色は10YRで彩度1、明度2である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で疎、PH(H₂O) 6.71、下層との境界明瞭である。

第4層は厚さ14cm内外、土性はL1Cである。腐植含量7.9%、色は10YRで彩度2、明度2である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、PH(H₂O) 6.95、下層との境界明瞭である。

第5層は57cm以下、土性はC-Lである。腐植含量12.6%、色は10YRで彩度1、明度1である。ち密度2.0で中、PH(H₂O) 6.60である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道河東郡趣追町 試坑10.78

第1層	0～20cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 1/1)のL、疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O) 6.50、層界判然。
第2層	20～27cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 3/1)のL、疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O) 6.89、層界明瞭。
第3層	27～43cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/1)のL1C、疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度1.6で疎、PH(H ₂ O) 6.71、層界判然。
第4層	43～57cm	腐植に富む、黒色(10YR 2/2)のL1C、疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O) 6.95、層界明瞭。
第5層	57～100cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 1/1)のC-L、ち密度2.0で中、PH(H ₂ O) 6.60

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	6.5	0	30.9	27.4	31.3	10.6	L	—	—	8.17	0.74	11	1318
2	20~27	6.2	0	30.7	24.1	40.7	4.5	L	—	—	8.06	0.71	11	1299
3	27~43	7.8	0	20.1	20.5	37.7	31.6	Lic	—	—	9.24	0.81	11	1469
4	43~57	7.1	0	10.5	17.0	32.7	39.8	Lic	—	—	4.94	0.46	11	791
5	57~100	7.7	0	—	—	—	—	—	—	—	7.93	0.33	15	1261

層位	pH		置換度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷吸收係数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.50	6.05	0.38	5.40	78.6	3.4	1.1	145.5	1690	51.5
2	6.89	6.31	0.50	5.36	109.5	11.1	1.2	204.2	1620	47.1
3	6.71	6.39	0.38	6.53	69.2	4.2	0.8	106.0	2100	tr
4	6.95	5.41	0.38	4.34	23.1	5.3	2.6	53.3	1940	tr
5	6.60	4.41	1.38	6.97	27.6	2.4	3.5	39.6	1770	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、東瓜幕統があるが、腐植層序が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積／洪積世堆積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として牧草、てん菜、馬鈴薯を作付けている。

E 農業上の留意事項

暗渠、明渠排水、酸性矯正

F 分布 北海道河東郡鹿追町

調査および記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

(1) 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
通明	Jwfiltpona

② 土壤区別説明

通 明 一 通 明

示 性 分 級 式 (續)

土 壤 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生 効 土 杉 表 表 表	透 保 固 土	置 有 微 酸	有 物	增 地	自 傾 入	侵 耐 耐	
產 土 土 土 土 土 土	地 然 層 分 換	" " 効	害 理	冠 す			
力 の の の の の の	の 風 土 土 土 土 土	の 性 態 量	物 的	水 べ	然 斜 為	水 風	
可 の の の の の の	の 乾 の 水 水 潤 肥 肥 定	塙 の 石 苦 加 酸	害 質	害 の り	の 危	の 費	
能 の の の の の の	粘 土 基 土 里 酸 要	害	障	危 の 備	傾 傾	傾 費	
性 厚 砂 難 土 着 の	硬 乾 沃 状 豊 "	有 害	險	危 方			
性 厚 砂 難 土 着 の	性 性 度 力 力 感 量	素 度	無 度	度 度	斜 向 斜	度 性 性	
級 さ さ 量 易	湿 度 合	性 性	性 性	斜 斜			
t d g p	w f n	i a s	e				
■ ■ ■ ■ ■ 1 2 1 ■ 2 1 3 ■ 1 3 1 ■ 1 1 1 1 2 1 I 1 1 I 2 1 I 1 -- I 1 1 1							
簡 略 分 級 式	■ wf ■ tp na						

A 土壌区の特徴

この土壤区は通明統に属する。表土の厚さは20cm内外でやや深い。有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、砂土はやや困難である。保肥力大、固定力中、土層の鹽基性良好である。作土は酸度少、直換性石灰多、苦土多、カリ多、有効態磷酸多である。特殊な障害なし。

B 植生および利用状況

主として牧草、てん菜、馬鈴薯を作付けている。

C 地力保全上の問題点

排水不良があるので、暗渠、明渠、曇性矯正が必要である。

不良な理没腐植質火山灰土の改良のために下層土に改良資材の投入が重要である。

D 分 布 北海道可東郡曉追町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 时 昭和46年3月31日

南 新 得 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ 13cm 内外、土性は CL である。腐植含量 15.6%、色は 10 YR で彩度 2、明度 2 である。礫なく発達弱度の細粒状、粒状構造、細孔あり、ち密度 11 で疎、PH (H₂O) 6.65、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ 12cm 内外、土性は CL である。腐植含量 9.9%、色は 10 YR で彩度 1、明度 2 である。礫なく発達弱度の塊状構造、中度の粒状構造、細孔あり、ち密度 18 で疎、PH (H₂O) 6.47、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ 7cm 内外、土性は CL である。腐植含量 14.9%、色は 10 YR で彩度 3、明度 3 である。礫なく発達弱度の塊状構造、細孔含む、ち密度 18 で疎、PH (H₂O) 5.98、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ 15cm 内外、土性は LiC である。腐植を欠き、色は 10 YR で彩 6、明度 4 である。礫なく発達弱度の塊状構造、細孔あり、ち密度 17 で疎、PH (H₂O) 5.86 である。

第5層は 47cm 以下、角礫層（花崗岩）である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道上川郡新得町 試坑 No. 101

第1層	0～13cm	腐植に頗る富む、黒色 (10 YR 2/2) の CL、礫なく発達弱度の粒状、細粒状構造あり、細孔あり。ち密度 11 で疎、PH (H ₂ O) 6.65、層界判然。
第2層	13～25cm	腐植に富む、黒色 (10 YR 2/1) の CL 矿なく発達弱度の塊状、中度の粒状構造あり、細孔あり。ち密度 18 で疎、PH (H ₂ O) 6.47 層界判然。
第3層	25～32cm	腐植に頗る富む、黄褐 (10 YR 3/3) の CL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔含む。ち密度 18 で疎、PH (H ₂ O) 5.98、層界判然。
第4層	32～47cm	腐植を欠き、黄褐 (10 YR 4/6) の LiC、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度 17 で疎、PH (H ₂ O) 5.86
第5層	47cm～	角礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位	水分%	総重量%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	6.1	0	38.5	18.4	23.2	19.8	CL	—	—	9.60	0.63	15	15.55
2	13~25	8.0	0	—	—	—	—	CL	—	—	6.25	0.47	13	9.92
3	25~32	10.9	0	19.9	17.7	37.7	24.7	CL	—	—	9.69	0.70	14	14.90
4	32~47	8.5	0	16.2	16.3	35.8	31.7	LC	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.65	5.72	0.50	38.9	41.1	6.0	0.3	105.7	177.0	tr
2	6.47	5.02	1.00	30.5	11.8	0.4	0.2	38.8	223.0	tr
3	5.98	4.38	3.88	32.2	5.0	0.3	0.2	15.7	254.0	tr
4	5.86	4.49	2.63	18.8	3.1	0.2	0.2	16.3	193.0	tr

*:触感による

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、広内西統、新待統があるが、広内西統とは、地下水位の高低、新待統とは腐植層序が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積／洪積世堆積

B 地形 波状地形

C 気候 年平均気温 7.0 °C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として牧草が作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物の投入、保全耕作

F 分布 北海道上川郡新得町

調査および記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
南新得	Mfntaps

② 土壤区別説明

南新得一南新得

示性分級式(畳)

土壤	表土有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生産力の可	効土の層の	表土の風	保湿土の	保固土の性	置換土の量	有微酸基の性	有物質の量	増害のり
能性の厚等	土の難	土の硬	水潤肥の粘	肥定塩の苦	肥定塩の加	害理害の障	地冠水の危	地冠水の
被	着土	乾	水潤肥	定塩基	定塩基灰土里	害理害の障	然斜傾傾	然斜傾傾
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
	II	II	I	2 2 2	I	1 1 2	II	1 4 2
						I	1 1	I
						1 1	I	1 1
						I	2 1 1	II
						1 1	II	2 1 1
簡略分級式	tdgpnifn	tdapse						

A 土壤区の特徴

この土壤区は南新得統に属する。表土の厚さは20cm内外でやや深い。有効土層は47cm以下でやや深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力大、土壤の塩基状態中である。

作土は酸度弱、置換性石灰多、苦土多、加里中、有効態磷酸少である。

B 植生および利用状況

主として牧草が作付られている。

C 地力保全上の問題点

傾斜地であるため、縁作帶の設置、有機物の投入および塩基、磷酸の補給が必要である。

D 分布 北海道上川郡新得町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和46年3月31日

新得統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A—1 断面の特徴

第1層は厚さ2~2cm内外、土性はCLである。腐植含量16.4%、色は10YRで彩度2、明度2である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度2.2で中、PH(H₂O)5.42下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ1.2cm内外、土性はLiCである。腐植含量18.2%、色は10YRで彩度3、明度2である。疎なく発達中度の粒状、弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.1で中、PH(H₂O)5.43下層との境界明瞭である。

第3層は厚さ1.8cm内外、土性はLiCである。腐植含量15.4%、色は10YRで彩度4、明度3である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔含む、ち密度1.8で疎、PH(H₂O)5.41、下層との境界判然である。

第4層は5.2cm以下、土性はCLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度8、明度5である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度1.8で疎、PH(H₂O)5.29である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道上川郡新得町 試坑No.103

第1層	0~2.2cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/2)のCL、疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度2.2で中、PH(H ₂ O)5.42、層界明瞭。
第2層	2.2~3.4cm	腐植に頗る富む、黄褐(10YR 2/3)のLiC、疎なく発達中度の粒状、弱度の塊状構造あり、細孔含む。ち密度2.1で中、PH(H ₂ O)5.43、層界明瞭。
第3層	3.4~5.2cm	腐植に頗る富む、黄褐(10YR 3/4)のLiC、疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔含む。ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O)5.41、層界判然。
第4層	5.2cm~	腐植を欠き、黄褐(10YR 5/8)のCL、疎なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり。ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O)5.29である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	疎含量 重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全塩素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~2.2	8.0	0	36.6	25.0	21.8	16.5	CL	—	—	10.33	0.80	1.3	16.39
2	2.2~3.4	11.6	0	19.9	22.6	23.9	33.6	LiC	—	—	11.91	0.94	1.3	18.15
3	3.4~5.2	14.0	0	13.0	19.7	40.1	27.2	LiC	—	—	10.36	0.86	1.2	15.36
4	5.2~	5.1	0	31.1	28.1	20.4	20.3	CL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me / 100g	置換性塩基 me / 100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷 mg / 100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.42	4.37	3.38	34.9	10.2	0.3	0.1	29.4	2040	6.7
2	5.43	4.41	3.13	44.0	8.0	0.5	0.1	18.2	2408	tr
3	5.41	4.51	2.38	45.1	6.2	0.7	0.1	13.7	2590	tr
4	5.29	4.40	3.25	20.1	4.8	0.4	0.1	24.1	2390	2.5

A—2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、南新得統があるが腐植層序が異なるので本統と区別される。

A—3 母材 非固結火成岩／非固結火成岩

A—4 堆積様式 風積／洪積世堆積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として牧草が作付けられている

E 農業上の留意事項

有機物の投入

F 分布 北海道上川郡新得町

調査および記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
新得	mlfnlpwse

② 土壤区別説明

新得一新得

示性分級式（細）

土壌	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生産土の力の可能の性等級	効土松土の風の層の乾の土着の厚さ等級	表表土の土の風の層の乾の水水潤肥定基	透保濕然の性状の性度	保固土換の性状	置換の性状	有微酸塩の石苦加磷灰土里酸要含	有物害質害のり有害無性	增地冠水害のり危険度度
t d g p	w f n				i a s			e
I I I I 2 2 2	1 2 2 1 4 3 1 3 3 2 2 2	I 1 1 I 1 1 I 2 1 1 I 2 1 2						
簡略分級式 I f n I p w s e								

A 土壌区の特徴

この土壌区は新得統に属する。表土の厚さは 2~2cm 内外でやや深い。有効土層は 10~10 cm 以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力大、土層の塩基状態不良である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土少、加里少、有効態磷酸中である。

B 植生および利用状況

主として牧草が作付られている。

C 地力保全上の問題点

心土が良好であるので、これを活用して混層耕を行なうことにより增收が期待できる。

防風林の完備、有機物の投入および塩基、磷酸の補給が必要である。

D 分布 北海道上川郡新得町

記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

日 附 昭和 46 年 3 月 31 日

広内西統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ 16 cm 内外、土性は SCL である。腐植含量 15.8%、色は 10 YR で彩度 1、明度 2 である。疎なく発達弱度の塊状構造あり孔隙なし、ち密度 1.5 で疎、PH (H₂O) 5.45、

下層との境界判然である。

第2層は厚さ24cm内外、土性はLICである。腐植含量19.0%、色は10YRで彩度1、明度1である。礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で疎、PH(H₂O)5.31下層との境界明瞭である。

第3層は厚さ40cm内外、土性はSiCである。腐植含量10.8%、色は10YRで彩度2、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり、ち密度2.0で中、PH(H₂O)5.42、下層との境界漸変である。

第4層は、80cm以下、土性はCLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度3、明度8である。中礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、斑鉄あり、ち密度2.3で中、PH(H₂O)5.42である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道上川郡新得町 試坑No.160

第1層	0～16cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/1)のSiL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)5.45、層界判然。
第2層	16～40cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 1/1)のLIC、礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔あり。ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O)5.31、層界明瞭。
第3層	40～80cm	腐植に富む、灰褐(10YR 3/2)のSiC、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細小孔あり。ち密度2.0で中、PH(H ₂ O)5.42、層界漸変
第4層	80cm～	腐植を欠き、黄褐(10RY 8/3)のCL、中礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、斑鉄あり、ち密度2.3で中、PH(H ₂ O)5.42である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	機含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～16	6.0	0	47.1	12.8	18.0	21.8	SiL	—	—	9.77	0.71	1.4	15.83
2	16～40	9.0	0	25.9	10.0	33.7	30.2	LIC	—	—	12.11	0.90	1.3	18.99
3	40～80	9.4	0	23.4	18.6	46.3	11.5	SIL	—	—	6.92	0.57	1.2	10.80
4	80～	5.6	22	19.8	24.0	32.3	23.8	CL	—	—	—	—	—	—

層位	P H		置換酸度 Y 1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燃吸係数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	K ₂ O			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.45	4.19	3.75	30.9	8.1	1.0	0.1	26.2	1,630	tr
2	5.31	4.22	4.63	38.9	3.4	0.5	0.1	8.8	2.290	2.4
3	5.42	4.41	2.63	28.6	1.7	3.6	0.3	5.8	2.370	tr
4	5.42	4.43	2.38	12.9	1.4	0.0	0.2	10.7	1.680	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては南新得統があるが、地下水位の高低が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積／供積世堆積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 7.0 °C 年降水量 993 mm

D 植生および利用状況

主として牧草を作付している。

E 農業上の留意事項

暗渠、明渠、排水渠

F 分布 北海道上川郡新得町

調査および記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区分一覧

土壤区分	簡略分級式
広内西	■w f n ■ d p i s e

② 土壤区分説明

広内西—広内西

示性分級式(細)

土壌	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生産力の能	効土の層の機厚等級	土松の風の乾土着の難含さ	表表土の土の土の水潤肥基の性状の性度	保湿土の性状の性度	保固土の性量の基	置換塩の石苦加磷灰土里酸要の含	有微酸物害質害の障害の危険	地冠水度の傾斜方
土の風の層の機厚等級	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度
土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度	土の土の水の水潤肥基の性状の性度
t d g p	w	f	n		i	a	s	e
I I I I 2 2 1 I 2 2 3 I 1 3 2 I 1 2 3 3 2 2 I 1 2 I 1 1 I 2 —— I 1 2 1								
簡略分級式 Iwf nIapise								

A 土壤区の特徴

この土壤区は広内西統に属する。表上の厚さは30cm内外で深い、有効土層は80cm以下でやや深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土中、加里少、有効態磷酸少である。

B 植生および利用状況

主として牧草を作付ている。

C 地力保全上の問題点

排水不良地であるので、暗渠、明渠、排水渠による排水が必要である。酸性矯正、塩基、磷酸の補給も重要である。

D 分布 北海道上川郡新得町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日附 昭和46年3月31日

笛川統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ19cm内外、土性はCLである。腐植含量12.9%、色は10YRで彩度2、明度2である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度2.5で密、PH(H₂O) 5.22

下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ13cm内外、土性はCLである。腐植含量7.4%、色は10YRで彩度3、明度2である。疎なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.2で中、PH(H₂O)5.79、下層との境界判然である。

第3層は厚さ18cm内外、土性はLである。腐植含量3.0%、色は10YRで彩度1、明度2である。疎なく発達中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度2.0で中、PH(H₂O)5.90、下層との境界判然である。

第4層は厚さ26cm内外、土性はCLである。腐植含量5.7%、色は10YRで彩度3、明度3である。疎なく発達弱度の細粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.0で中、PH(H₂O)5.84である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑No.47

第1層	0～19cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/2)のCL、疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度2.5で密、PH(H ₂ O)5.22、層界明瞭。
第2層	19～32cm	腐植に富む、黄褐(10YR 2/3)のCL、疎なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり。ち密度2.2で中、PH(H ₂ O)5.79、層界判然。
第3層	32～50cm	腐植を含む、黒色(10YR 2/1)のL、疎なく発達中度の粒状構造あり、細孔あり。ち密度2.0で中、PH(H ₂ O)5.90、層界判然。
第4層	50～76cm	腐植に富む、黄褐(10YR 3/3)のCL、疎なく発達弱度の細粒状、塊状構造あり、細孔あり。ち密度2.0で中、PH(H ₂ O)5.84である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～19	9.2	0	27.3	32.8	22.3	17.6	CL	—	—	8.20	0.34	24	12.85
2	19～32	4.8	0	27.2	29.4	25.9	16.8	CL	—	—	4.48	0.42	11	7.36
3	32～50	4.2	0	27.2	35.9	22.7	13.2	L	—	—	1.84	0.18	10	3.03
4	50～76	8.1	0	23.9	29.2	24.7	22.2	CL	—	—	3.61	0.36	10	5.73

層位	P H		置換酸度 Y 1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.22	4.90	0.50	44.8	24.9	2.1	0.1	55.5	2.110	tr
2	5.79	4.60	0.75	23.9	11.6	0.5	0.1	48.3	1.350	4.6
3	5.90	4.64	0.75	13.9	5.4	0.2	0.1	39.1	1.350	tr
4	5.48	4.62	1.00	22.0	7.6	0.2	0.1	34.6	1.680	tr

A—2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては屈足統、西瓜幕統があるが、屈足統とは腐植層序が異なり、西瓜幕統とは疊層の出現の有無で本統と区別される。

A—3 母材 非固結火成岩／非固結水成岩

A—4 堆積様式 風積／水積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 7.0℃ 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として、菜豆、てん菜、馬鈴薯が作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物の投入

F 分布 北海道河東郡鹿追町、上川郡新得町

調査および記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
笹川	ldfne

② 土壤区別説明

笹川 一 笹川

示性分級式 (地)

土壌表有表耕土	土自養	障害傾侵
生効土	透保濕保固土置有微酸有物增地自傾入侵耐耐	
土産土	松土地然磨分換"効害理冠す	
土の力	土の風の層の乾の水水潤肥肥定塩の石苦加磷害質害のりの	水風
可の層の風能の砾土の粘土の	基灰土里酸要害障害の危の傾傾	の
能の砾土着の	含有害危險危險方	傾
性厚深含等級ささ量易	沃豊"'"素度無性度度	斜向斜度性
難硬性性さ	性性度力力態量	斜度
乾沃性性さ	度否	斜度
t d g p	w f n	i a s e
II	I I I 2 1 1 I 1 1 1 II 1 3 2 II 1 1 3 3 2 2 I 1 1 I 1 1 I 1 — II II II	
簡略分級式	II d f n e	

A 土壤区の特徴

この土壤区は道川統に属する。表土の厚さは 19 cm 内外でやや深い、有効土層は 7 6 cm 以下でやや深い。表土の土性は枯質で耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の鹽基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土多、加里少、有効態磷礦少である。特殊な障害性なし地形は平坦である。風蝕のおそれがある。

B 植生および利用状況

主として菜豆、てん菜、馬鈴薯が作付られている。

C 地力保全上の問題点

心土が良好な冲積土であるので、混層耕を行なうことにより増収が期待できる。

防風林の完備、有機物の投入が必要である。

D 分布

北海道河東郡鹿追町、上川郡新得町

記載責任者 横井 義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和 46 年 3 月 31 日

西瓜幕統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第 1 層は厚さ 11 cm 内外、土性は S C L である。腐植含量 10.6%、色は 10 Y R で彩度 2、

明度2である。細円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度20で中、PH(H₂O)5.22、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ9cm内外、土性はCLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度4、明度3である。細円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度20で中、PH(H₂O)5.79、である。

第3層は20cm以下円礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑No.38

第1層	0～11cm	腐植に富む、黒色(10YR2/2)のSCL、細円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度20で中、PH(H ₂ O)5.22、層界明瞭。
第2層	11～20cm	腐植を欠き、黄褐(10YR3/4)のCL、細円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度20で中、PH(H ₂ O)5.79である。
第3層	20cm～	礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	砾含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～11	6.2	2.6	35.1	21.5	19.0	24.4	SCL	—	—	6.53	0.55	12	10.57
2	11～20	7.1	2.6	63.8	63.8	22.6	20.0	CL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.22	4.50	1.25	26.8	10.7	0.2	0.7	39.8	1680	5.5
2	5.79	4.80	0.63	42.2	25.5	1.0	0.1	60.5	242	6.0

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、笹川統があるが礫層の出現の有無で本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 7.0 °C 年降水量 993

D 植生および利用状況

主として、菜豆、てん菜、馬鈴薯を作付けている。

E 農業上の留意事項 保全耕作

F 分布 北海道河東郡鹿追町、上川郡新得町

調査および記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
西瓜幕	西瓜幕

② 土壤区別説明

西瓜幕—西瓜幕

示性分級式 (畳)

土壤	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地
産	土	松	土地	然	々層分	換	効	害埋
力	土	土	土	性	性	量	物的	冠す
可	の	の	の	の	の	量	水べ	然為
能	層	乾	水	水潤肥定	塩	石苦加磷	害質	水風
厚	の	粘	水	肥定	基	灰土里酸要	害のり	の
性	疊	土	土	定	灰	害の障	障の	蝕
等	難	土着	土着	豊	含	害の危	危の傾	傾
級	深	硬	硬	度	量	有害	危險	蝕
さ	含	乾	性	性	素度	無性	度度	方
さ	さ	量	性	度	度	度	斜向斜	度性性
さ	易	湿	性	否	性	性	斜	蝕
さ	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	211 (山)	131	Ⅱ	132	Ⅱ 131222 Ⅲ 131 111 11— Ⅱ 212
簡略分級式	西瓜幕							

A 土壤区の特徴

この土壤区は西瓜幕統に属する。表土の厚さは11 cm内外で浅い。有効土層は20 cm以下で浅い。表土の土性は粘質で耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土少、加里多、有効態磷酸中である。

B 植生および利用状況

主として、菜豆、てん菜、馬鈴薯を作付けている。

C 地力保全上の問題点

有効土層が浅いため、客土などにより高める必要がある。

D 分 布 北海道河東郡鹿追町、上川郡新得町

記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

日 附 昭和46年3月31日

屈 足 続

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、土性はCLである。腐植含量6.6%、色は10YRで彩度1、明度1である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度21で中、PH(H₂O)5.71、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ12cm内外、土性はSLである。腐植含量4.1%、色は10YRで彩度1、明度2である。疎なく発達弱度の粒状、細粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度20で中、PH(H₂O)5.23、下層との境界判然である。

第3層は厚さ11cm内外、土性はL1Oである。腐植含量4.1%、色は10YRで彩度2、明度2である。疎なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、斑鉄あり、ち密度21で中、PH(H₂O)5.89、下層との境界判然である。

第4層は厚さ29cm内外、土性はH0である。腐植を欠き、色は10YRで彩度3、明度4である。細円疊あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔含む、斑鉄あり、ち密度22で中、PH(H₂O)5.70である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑No.48

第1層	0～18cm	腐植に富む、黒色(10YR1/1)のCL、疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度21で中、PH(H ₂ O)5.71、層界明瞭。
第2層	18～30cm	腐植を含む、黒色(10YR2/1)のSL、疎なく発達弱度の粒状、細粒状、塊状構造あり、細孔あり。ち密度20で中、PH(H ₂ O)5.23 層界判然。
第3層	30～41cm	腐植を含む、黒色(10YR2/2)のSL、疎なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり。斑鉄あり。ち密度21で中、PH(H ₂ O)5.89、層界判然。
第4層	41～70cm	腐植を欠き、黄褐(10YR4/3)のH0、細円疊あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔含む。斑鉄あり、ち密度22で中、PH(H ₂ O)5.70である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	6.8	0	14.4	33.6	31.4	20.6	CL	—	—	4.10	0.45	9	6.59
2	18~30	6.6	0	31.6	35.9	23.4	9.1	SL	—	—	2.53	0.25	10	4.10
3	30~41	9.0	0	35.3	8.9	20.9	34.9	LC	—	—	5.25	0.42	13	8.24
4	41~70	8.0	2.6	5.7	14.6	34.2	45.5	HO	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	有効磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.71	4.45	1.63	23.5	8.9	0.4	0.1	37.9	1770	tr
2	5.23	4.86	0.38	21.0	7.2	1.3	0.1	34.2	2140	tr
3	5.89	4.78	0.75	19.9	6.0	0.1	0.8	30.4	1850	tr
4	5.70	4.50	1.25	17.3	4.3	0.2	0.4	25.2	1850	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、笹川統、下鹿追統があるが、笹川統とは腐植層序が異なり、下鹿追統とは礫層の出現の有無で本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 場地標式 風積／水積

B 地形 平坦

C 气候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 产生および利用状況

主として水稻(新得町)、牧草、てん菜を作付けている。

E 農業上の留意事項

暗渠、幹線明渠、排水渠、酸性矯正

D 分布 北海道河東郡鹿追町、上川郡新得町

調査および記載責任者 横井義雄(北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
屈足	IIIwf nIIpa

② 土壌区分説明

屈足一屈足

示性分級式 (畳)

土壌	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生産土の力の可能の性等級	効土耘土の風の層の枯土着の厚深含さ	表表土の土の風の乾の水潤肥定塩基性性さ	透保湿然の性状	保固土層分換の基状	置換"の量	有微酸苦加磷灰土里酸要含"の素度	有物害質無性度	增加地害のり害の危険度
	耕耘の難硬乾沃	耕起、碎土はやや困難である。	然の性状	固定力中、土層の塩基状態	肥料定塩基性度	害理害質無性度	自然為の傾向	水風の傾向
	耕起、碎土はやや困難である。	然の性状	然の性状	固定力中、土層の塩基状態	肥料定塩基性度	害理害質無性度	自然為の傾向	水風の傾向
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
	I I I	2 2 1	2 2 3	2 3 2	1 3 3 3 2 2	I 1 1	2 1	I 1 1 1 I 1 1 1
簡略分級式								
w f n pa								

A 土壌区の特徴

この土壌区は屈足系に属する。表土の厚さは18cm内外でやや深、有効土層は100cm以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は軟度中、置換性石灰多、苦土少、加里少、有効態磷酸少である。特殊な障害性なし。地形は平坦である。

B 植生および利用状況

主として水稻(新得町)、牧草、てん菜を作付けている。

C 地力保全上の問題点

伏流水による湿地であるので暗渠、幹線明渠、排水渠排水が必要である。

酸性矯正、塩基、磷酸の補給も重要である。

D 分布

北海道河東郡鹿追町、上川郡新得町

記載責任者 横井義雄(北海道立十勝農業試験場)

日附 昭和46年3月31日

下鹿追統

(1) 土壌統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、土性はCLである。腐植含量14.1%、色は10YRで彩度1、明度1である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度1.5で、PH(H₂O)5.31、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ12cm内外、土性はLICである。腐植含量9.0%、色は10YRで彩度1、明度2である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.8で、PH(H₂O)4.90である。

第3層は35cm以下円礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑No.52

第1層	0～18cm	腐植に頼る富む、黒色(10YR 1/1)のCL、礫なく塊状構造あり、細孔あり。ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)5.31、層界明瞭。
第2層	18～35cm	腐植に富む、黒色(10YR 2/1)のLIC、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O)4.90。
第3層	35cm～	礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～18	6.3	0	32.7	28.0	23.5	15.8	CL	—	—	8.74	0.68	13	14.12
2	18～35	10.4	0	13.5	32.2	25.8	28.4	LIC	—	—	5.85	0.85	7	9.04

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸 吸收係数 mg/100g	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.31	4.29	3.00	3.41	7.9	0.7	0.5	23.1	18.60	1.5
2	4.90	4.13	9.75	5.83	3.7	0.0	0.7	63.2	23.30	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては屈足統があるが、礫層の出現の有無で本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積／水積

B 地形 平坦

C 气候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として大豆、てん菜、牧草を作付けている。

E 農業上の留意事項

酸性矯正

F 分 布 北海道河東郡鹿追町

調査および記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
下鹿追	MdwniIpfA

② 土壤区別説明

下鹿追一下鹿追

示性分級式 (畳)

土壤	表有耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生産力の層の厚さ等級	効土の風の層の粘土の難度等級	表土の土の風の層の乾燥の粘土の性状等級	表土の土地の性質の肥沃度等級	保土の保濕性の施肥量等級	固土の置換率の塩基性度等級	有機物の有量の害質の含蓄等級	微酸の物質の害の程度等級	酸化物の増加の冠水の危険度等級
t d g p	w f n	i a s	e					
I II I II 2 2 1 II 2 2 3 II 1 3 2 II 1 2 1 3 2 3 II 1 3 II 2 1 I 1 —— I 1 1 1								
簡略分級式	MdwniIpfA							

A 土壤区の特徴

この土壤区は下鹿追統に属する。表土の厚さは 18cm 内外でやや深い、有効土層は 35cm 以下で浅い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態中である。作土は酸度強、置換性石灰多、苦土中、加里多、有効態磷酸少である。

B 植生および利用状況

主として大豆、てん菜、牧草を作付けている。

C 地力保全上の問題点

暗渠、明渠、捕水渠による排水が必要である。

D 分 布 北海道河東郡鹿追町

記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

日 附 昭和46年3月31日

中 鹿 追 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、土性はSLである。腐植含量11.5%、色は10YRで彩度1、明度2である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、PH(H₂O)5.30ヨシを含む、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ9cm内外、ヨシからなる分解稍々不良な泥炭、PH(H₂O)5.01である。

第3層は27cm以下円疊層である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑No.62

第1層	0～18cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/1)のSL、疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)5.30、層界明瞭。
第2層	18～27cm	ヨシからなる泥炭、分解稍々不良。PH(H ₂ O)5.01。
第3層	27cm～	円疊層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	疊含量 重量 %	粒径組成 %					土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘度								
1	0～18	5.5	0	31.7	36.2	22.4	9.8	SL	—	—	—	7.05	0.78	9	11.48
2	18～27	10.7	0	—	—	—	—	—	—	—	—	22.32	6.72	3	34.36

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.30	4.38	1.63	32.7	14.5	0.4	0.2	44.3	1350	5.9
2	5.01	4.02	—	7.32	25.5	4.3	0.2	34.9	—	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、下鹿追統があるが堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／ヨシ

A-4 堆積様式 風積／集積

B 地形 緩傾斜

C 気候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として牧草を作付けている。

E 農業上の留意事項

暗渠、明渠、排水渠

F 分布 北海道河東郡鹿追町

調査および記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
中鹿追	Nw Manialfe

② 土壤区別説明

中鹿追一 中鹿追

示性分級式 (畠)

土壌	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵																											
生産力の能性等級	効土の層の乾性の厚さ	土松の風土の土着の難深さ	表表土の土の粘土の性状	透保湿地の性度	保固土の性度	置換の基	有微酸塩の石苦加磷基	有物害の害質害の危有害																											
の層の粘土の風土の土着の難深さ	乾の水潤肥定	土の風土の土着の難深さ	水水潤肥定	然然の性度	然然の性度	換換の基	微酸鹽の石苦加磷基	增地害理害の危有害																											
可能の機能の性等級	の層の粘土の風土の土着の難深さ	地冠水水害の危有害																																	
の層の粘土の風土の土着の難深さ	乾の水潤肥定	土の風土の土着の難深さ	水水潤肥定	然然の性度	然然の性度	換換の基	微酸鹽の石苦加磷基	然斜為水害の危有害																											
の層の粘土の風土の土着の難深さ	土の風土の土着の難深さ	地冠水水害の危有害																																	
の層の粘土の風土の土着の難深さ	の層の粘土の風土の土着の難深さ	の層の粘土の風土の土着の難深さ	の層の粘土の風土の土着の難深さ	の層の粘土の風土の土着の難深さ	の層の粘土の風土の土着の難深さ	の層の粘土の風土の土着の難深さ	の層の粘土の風土の土着の難深さ	地冠水水害の危有害																											
t d g p	w	f	n	i	a	s	e																												
IV	I	II	I	1	1	1	IV	2	3	3	II	1	2	2	I	1	3	2	2	2	2	II	1	3	II	3	1	I	1	—	—	II	2	1	1
簡略分級式 IVw II d n i a II f e																																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は中鹿追統に属する。表土の厚さは 2.5 cm 内外で深い、有効土層は 2.7 cm 以下で浅い。表土の土性は 塙質で耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態である。作土は 暖度中、置換性石灰多、苦土少、加里中、有効態磷酸中である。

B 植生および利用状況

主として牧草を作付けている。

C 地力保全上の問題点

伏流水による泥炭であるため捕水渠、明渠が必要である。

D 分布 北海道河東郡鹿追町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和46年3月31日

瓜幕統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ 2.5 cm 内外、土性は C L である。腐植含量 13.0 %、色は 10 Y R で彩度 1、明度 2 である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度 2.2 で中、PH (H₂O) 5.1.0 下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ14cm内外、土性はL i Cである。腐植含量15.0%、色は10YRで彩度1、明度3である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、ち密度1.9で中、 $P^H(H_2O)$ 5.05、下層との境界明瞭である。

第3層は厚さ10cm内外、土性はL i Cである。腐植含量9.8%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、ち密度1.9で中、 $P^H(H_2O)$ 5.01、下層との境界判然である。

第4層は厚さ9cm内外、土性はC Lである。腐植含量3.30%、色は10YRで彩度2、明度3である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、ち密度1.7で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.15、下層との境界判然である。

第5層は厚さ20cm内外、土性はS L、腐植を欠き、色は10YRで彩度3、明度3である。細円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、斑鉄あり、ち密度1.3で疎である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑No.71

第1層	0～25cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/1)でC L、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度2.2で中、 $P^H(H_2O)$ 5.10、層界明瞭。
第2層	25～39cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 3/1)でL i C、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、ち密度1.9で中、 $P^H(H_2O)$ 5.05、層界明瞭。
第3層	39～49cm	腐植に富む、黒色(10YR 2/2)でL i C、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、ち密度1.9で中、 $P^H(H_2O)$ 5.01、層界判然。
第4層	49～58cm	腐植を含む、灰褐(10YR 3/2)でC L、礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、ち密度1.7で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.15、層界判然。
第5層	58cm～	腐植を欠き、黄褐(10YR 3/3)でS L、細円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。斑鉄あり、ち密度1.3で疎である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～25	6.0	0	23.2	28.4	27.7	22	C L	—	—	8.02	0.77	1.0	12.99
2	25～39	7.3	0	18.4	22.1	28.7	31.6	L i C	—	—	9.37	0.88	1.1	14.97
3	39～49	6.7	0	16.2	26.5	25.3	32.1	L i C	—	—	6.09	0.50	1.2	9.79
4	49～58	3.8	0	18.1	34.3	24.3	23.3	C L	—	—	1.99	0.18	1.1	3.30

層位	PH		置換緩度 Y ₁	塩基 置換容量 M.E./100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸 吸收係数	有効態 磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.10	4.31	2.75	37.9	13.3	0.9	0.2	35.1	1640	72
2	5.05	4.30	4.50	42.4	9.8	0.6	0.2	23.2	2020	1.9
3	5.01	4.30	5.75	34.3	5.0	0.3	0.2	14.7	2060	tr
4	5.15	4.20	8.88	19.4	3.3	0.6	0.3	17.1	1200	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、東瓜幕統、美蔓統があるが地下水位の高低により本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積／水積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 7.0 °C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として牧草を作付けている。

E 農業上の留意事項

暗渠、明渠排水、捕水渠、酸性矯正

F 分布 北海道河東郡鹿追町

調査および記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
瓜幕	I w f a l l d p n e

② 土壤区別説明

瓜幕一瓜幕

示性分級式(畠)

土 壤	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵			
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 土 の の の の 層 厚 深 さ さ	表 耘 土 土 の 風 の の 粘 土 着 性 性 度 含 量	表 土地 土 の の 水 水 潤 肥 肥 定 基 土 着 性 性 度 力 力 態 量	透 保 然 の の 水 水 塩 基 状 狀	保 固 層 性 態 量 石 苦 加 磷 灰 土 里 酸 要 含 量	置 換 分 物 基 灰 土 里 酸 要 含 量	微 効 物 害 質 害 障 害 無 性 度	酸 有 物 害 物 的 害 の 危 害 度	增 地 冠 水 の 水 の 危 險 度	自 傾 入 然 斜 為 の 傾 傾 方	耐 耐 水 風 蝕 蝕 蝕 方
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e		
■	I I I' I 2 2 2	2 3 3	1 3 3	1 2 2 2 2 2	I 1 1	3 1	I 1	—	I 2 2 1		
簡略分級式	I w f a l d p n e										

A 土壤区の特徴

この土壤区は瓜幕統に属する。表土の厚さは25cm内外で深い、有効土層は78cm以下で、やや深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやや困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態不良である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土中、加里中、有効態磷酸中である。

B 植生および利用状況

主として牧草を作付けている。

C 地力保全上の問題点

暗渠、明渠、捕水渠、河川改収により地下水位を下げる必要がある。

D 分布 北海道河東郡鹿追町

記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

日附 昭和46年3月31日

紅葉統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ22cm内外、土性はLSである。腐植含量1.3%、色は10YRで彩度3、明度4である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度1.7で疎、 P^H (H_2O) 5.51、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ11cm内外、土性はLSである。腐植含量0.9%、色は10YRで彩度4、明度4である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度21で中、 $P^H(H_2O)$ 5.67、下層との境界判然である。

第3層は厚さ9cm内外、土性はLSである。腐植を欠き、色は10YRで彩度2、明度4である。疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度15で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.90、下層との境界判然である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道河東郡鹿追町 試坑No.53

第1層	0～22cm	腐植あり、黄褐(10YR 4/3)のLS、疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度17で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.51、層界明瞭。
第2層	22～32cm	腐植あり、黄褐(10YR 4/4)のLS、疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度21で中、 $P^H(H_2O)$ 5.67、層界判然。
第3層	32～41cm	腐植を欠き、灰褐(10YR 4/2)のLS、疎なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度15で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.90である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	疎含量 重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～22	1.7	0	28.4	50.1	14.1	7.4	SL	—	—	0.77	0.09	8	1.32
2	22～32	1.7	0	43.4	44.5	8.0	4.4	LS	—	—	0.53	0.07	7	0.90
3	32～41	0.9	0	70.6	24.3	2.7	2.3	LS	—	—	—	—	—	—

層位	P^H		置換酸度 Y_1	塩基置換容量 ME/100g	置換性塩基 me/100g			石炭飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H_2O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.51	4.51	0.63	10.8	7.7	0.6	0.3	71.7	4.62	20.3
2	5.67	4.60	0.50	10.3	7.3	0.2	0.2	71.3	6.16	13.8
3	5.90	5.05	0.25	4.4	4.1	0.3	0.2	9.32	3.90	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては笛川統があるが、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積／水積

B 地形 平坦

C 气候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として菜豆、てん菜、馬鈴薯を作付けている。

E 農業上の留意事項

有機物の投入

F 分 布 北海道河東郡鹿追町、上川郡新得町

調査および記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 分	簡 略 分 級 式
紅 葉	II d(w)f n

② 土壤区別説明

紅葉一紅葉

示性分級式 (畠)

土壌	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生産土	効土	表表表	透保濕	保固土	置換々々々	有微酸	有物	增地
土の力	松土	土の風	然然然	層分性	換々々々	効性態量	害理物的	冠水ベ
可の層	土の枯	の乾	の水水水	肥定塩	石苦加磷	害質害	のりの	然斜為水風
能の礫	土の礫	土の乾	水潤肥	基	灰土里酸要	害の障	の危險	傾傾傾
性厚等	土着の	状	肥定塩	灰土里酸要	害の危	害の危	方	蝕蝕蝕
等級	性深含	性硬乾	沃	豊々々々	有害	度度度度度	斜向斜向斜	度度度度度
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
II	I I I I I I I	1 1 1 (II)	1 3 1	II 2 1 1	II 1 2 2 1	1 2 I	1 1 I	1 1 I 1 1 I 1 1 1
簡略分級式	II d(w)f n							

A 土壤区の特徴

この土壤区は紅葉統に属する。表土の厚さは2~2cm内外で深い、有効土層は6~8cm以下でやや深い、表土の土性は砂質で耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力ごく少、土層の塩基状態良好である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土中、加里中、有効態磷酸多である。特殊な障害性なし。

B 植生および利用状況

主として菜豆、てん菜、馬鈴薯を作付けている。

C 地力保全上の問題点

地力は高い方であるが、更に維持増進させるために塩基、有機物の補給が必要である。

D 分 布 北海道河東郡鹿追町、上川郡新得町

記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

日 附 昭和46年3月31日

屈 足 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ28cm内外、土性はSLである。腐植含量14.4%、色は10YRで彩度1、明度2である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度13で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.30下層との境界判然である。

第2層は厚さ18cm内外、土性はSLである。腐植含量11.7%、色は10YRで彩度1、明度3である。細円礫あり、発達弱度の塊状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度20で中、 $P^H(H_2O)$ 5.33、下層との境界判然である。

第3層は厚さ14cm内外、土性はLSである。腐植含量5.2%、色は10YRで彩度2、明度3である。細円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、 $P^H(H_2O)$ 4.52、である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道上川郡新得町 試坑No.32

第1層	0～28cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/1)のSL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし。ち密度13で疎、 $P^H(H_2O)$ 5.30、層界判然。
第2層	28～46cm	腐植に頗る富む、黒(10YR 3/1)のSL、細円礫あり、発達弱度の塊状、粒状構造あり、細孔あり。ち密度20で中、 $P^H(H_2O)$ 5.30、層界判然。
第3層	46～60cm	腐植に富む、灰褐(10YR 3/2)のLS、細円礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり。ち密度18で疎、 $P^H(H_2O)$ 4.52、層界判然。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~28	6.1	0	43.7	26.6	17.2	12.3	SL	—	—	8.91	0.72	1.2	14.43
2	28~46	6.8	2.6	49.9	25.6	12.3	12.0	SL	—	—	7.30	0.56	1.3	11.73
3	46~60	4.8	2.6	53.6	30.3	11.3	4.6	LS	—	—	3.15	0.27	1.2	5.17

層位	P^H		置換酸度 Y_1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	有效態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.30	4.53	1.63	32.6	14.7	1.0	0.4	45.1	1.850	4.0
2	5.33	4.42	2.63	30.7	7.1	0.6	0.3	23.1	2.060	tr
3	5.50	4.52	2.00	16.0	3.7	0.3	0.2	23.1	1.560	tr

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統として美蔓統があるが、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩／半固結水成岩

A-4 堆積様式 風積／崩積

B 地形 傾斜地

C 気候 年平均気温 7.0°C 年降水量 993mm

D 植生および利用状況

主として、てん菜、牧草を作付けている。

E 農業上の留意事項

保全耕作

F 分布 北海道上川郡新得町

調査および記載責任者 横井義雄（北海道立十勝農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区分	簡略分級式
屈足北	flawnase

② 土壤区別説明

屈足北一屈足北

示性分級式 (地)

土 壤	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 土 の の の 土 着 性 深 さ 等 級	土 耘 土 の の の 粘 土 着 性 深 さ 等 級	透 表 表 土地 然 層 分 換 水 潤 肥 定 基 灰 土 里 酸 要 含 量 度 否	保 固 土 の 性 態 量 塩 の 石 苦 加 磷 基 灰 土 里 酸 要 含 量 度 否	置 換 〃 〃 水 肥 定 基 灰 土 里 酸 要 含 量 度 否	有 害 物 質 的 書 障 害 の り の 危 害 の 危 險 度 度 度 性 性 性 性	堆 地 冠 水 べ 然 斜 為 の 傾 傾 方 向 斜 度 性 性	自 傾 入 耐 耐 水 風 水 風 傾 傾 方 向 斜 度 性 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
II	I I I I 1 1 2	1 1 2	I I 3 3	1 2 1 2 2 2	I 1 1	II 2 1	II 2 —	II 2 2 1
簡略分級式			■ f ■ w n a s e					

A 土壤区の特徴

この土壤区は屈足北統に属する。表土の厚さは 18 cm 内外でやや深い、有効土層は 100 cm 以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態不良である。作土は酸度中、置換性石灰多、苦土中、加里多、有効態磷酸中である。

B 植生および利用状況

主として、てん菜、牧草を作付けている。

C 地力保全上の問題点

傾斜地であるので緑作帯の設置および排水渠、明渠が必要である。

酸性矯正、塩基、磷酸の補給も重要である。

D 分布 北海道上川郡新得町

記載責任者 横井義雄 (北海道立十勝農業試験場)

日附 昭和 46 年 3 月 31 日

3. 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の説明

土壤の性状及び主要な保全対策を検討の上、次の8保全対策区を設定した。

保全対策 地区名	該当土壤区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
上幌内	上幌内	2,997	1.乾燥地 2.作土は新期火山灰、心土古期ローム質火山灰 3.腐植層うすい 4.波状地形	1.防風林の完備 2.塩基、磷酸の補給 3.混層耕および深耕 4.有機物および改良資材の施用 5.保全耕作および緑作帯の設置
美蔓	美蔓 北新得 東瓜幕	6,248	1.乾燥地 2.作土は新期火山灰、心土中期アロフェン質火山灰 3.腐植層うすい 4.波状地形	1.防風林の完備 2.塩基、磷酸の補給 3.心土に適量の改良資材を施用して漸次深耕 4.有機物の施用、保全耕作、緑作帯の設置
新然別	新然別 西新得	1,870	1.乾燥地 2.作土は火山灰、心土は洪積土 3.傾斜地	1.緑作帯の設置 2.塩基、磷酸、有機物の補給
北鹿追	北鹿追 下幌内	659	1.湿地 2.作土は火山灰、心土は盤層を呈する 3.酸性を呈する 4.地形は平坦である 5.腐植含量多い	1.心土破碎および暗渠、明渠排水 2.酸性矯正 3.塩基、磷酸の補給
佐幌	佐幌 通明	1,509	1.湿地 2.作土火山灰、心土 疑灰質堆積物 3.酸性を呈する 4.腐植含量多くかつ厚い	1.暗渠および明渠排水 2.酸性矯正 3.塩基、磷酸の補給

保全対策地区名	該当土壤区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
笹川	新得 笹川 西瓜幕	3,593	1.乾燥地 2.作土は火山灰、心土は冲積土ところにより礫が近い 3.平坦地	1.混層耕 2.有機物、塩基、磷酸の補給 3.防風林の完備
屈足	屈足 下鹿追 中鹿追 瓜幕 広内西 屈足北	3,740	1.湿地 2.作土は火山灰、心土沖積土あるいは泥炭土。ところにより礫が近い 3.酸性を呈する 4.平坦地および沢	1.暗渠および幹線明渠、排水渠 2.酸性矯正 3.塩基、磷酸の補給
紅葉	紅葉	638	1.作土、心土とも冲積土 2.乾燥地	1.混層耕 2.有機物、塩基の補給

2) 保全対策区分別説明

<上幌内保全対策地区>

(1) 分布状況

町村名	面積(ha)	該当土壤区
新得町、鹿追町	2,997	上幌内一上幌内

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土は新期の火山灰であるが、心土は古期のローム質火山灰からなる土壤である。乾燥地で、地形は波状～緩傾斜を呈している。腐植含量少なくかつ腐植層うすい土壤である。

春季に風蝕をうけやすいため防風林の完備が必要である。心土がローム質火山灰からなるので、心土を活用するために有機物および改良資材を伴う混層耕が望ましい。

地力を維持増進させるために、塩基、磷酸の補給、有機物、改良資材の施用が必要である。緩傾斜を呈しているため保全耕作、縁作帶の設置も必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積(ha)	実施方法	対策資材および機械、器具の種類、型式、数量
塩基、磷酸、有機物の施用 混層耕および深耕 保全耕作	2,997	堆肥の施用 縁作帶の設置	炭カル、硫酸、苦土、密磷

< 美蔓保全対策地区 >

(1) 分布状況

町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
新得町、鹿追町	6,248	美蔓一美蔓、北新得一北新得、東瓜幕一東瓜幕

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土は新期の火山灰であるが、心土は不良なアロフェン質火山灰からなる土壌である。乾燥地で地形は、波状地形～緩傾斜を呈している。腐植含量少なくかつ腐植層うすい土性である。

春季に風蝕をうけやすいため防風林の完備が必要である。心土が不良なアロフェン質火山灰になるとため、心土に適量の有機物および改良資材を施用して漸次深耕する必要がある。

地力を維持増進させるために塩基、磷酸の補給、有機物の施用が必要である。

緩傾斜を呈しているため、保全耕作、綠作帯の設置も必要である。

(3) 地力保全対策

対 策 の 種 類	面 積 (ha)	実 施 方 法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
心土の改良	6,248		石灰、溶燐
塩基、磷酸、有機物の補給		堆肥 肥の施用	
保全耕作		綠作帯	

< 新然別保全対策区 >

(1) 分布状況

町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
新得町、鹿追町	1,870	新然別一新然別、南新得一南新得

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土は新期の火山灰であるが、心土は洪積土からなる土壌である。

傾斜地であるため、土壌および養分の流失が激しいので、保全耕作および綠作帯の設置が必要である。塩基、磷酸の補給をわすれてはならない。

(3) 地力保全対策

対 策 の 種 類	面 積 (ha)	実 施 方 法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
塩基、磷酸、有機物の補給	1,870	堆肥 肥の施用	石灰、硫酸苦土、溶燐
保全耕作		綠作帯	

< 北鹿追保全対策地区 >

(1) 分布状況

町村名	面積(ha)	該当土壤区
鹿追町	659	北鹿追一北鹿追、下幌内一下幌内

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土は新期火山灰であるが、心土は盤層(凝灰質堆積物)を呈するので、心土破碎および暗渠、明渠が必要である。

また、酸性を呈するため、その矯正が必要である。地力を維持増進させるために、塩基、磷酸の補給を忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積(ha)	実施方法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
心土破碎、明渠、暗渠 酸性矯正	659		ブルドーザー 石灰
塩基、磷酸の補給		石灰、苦土の施用	炭カル、硫酸苦土

< 佐幌保全対策地区 >

(1) 分布状況

町村名	面積(ha)	該当土壤区
新得町、鹿追町	1,509	佐幌一佐幌、通明一通明

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土は新期の火山灰であるが、心土は粘質な洪積土からなる。そのため、排水不良となつてるので、暗渠、明渠が必要である。不良な埋没している腐植質火山灰土を改良するために下層土に対する資材の施用も考えられる。

地力を維持増進させるために、塩基、磷酸の補給を忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積(ha)	実施方法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
暗渠、明渠排水 心土の改良	1,509		炭カル、容磷
酸性矯正		石灰の施用	石灰
塩基、磷酸の補給		石灰、苦土の施用	炭カル、硫酸苦土

< 笹川保全対策地区 >

(1) 分布状況

町村名	面積(ha)	該当土壌区
新得町、鹿追町	3.593	新得一新得、笹川一笹川、西瓜幕一西瓜幕

(2) 保全対策地区的特徴と問題点

本対策地区の特徴は作土は新期の火山灰であるが、心土は沖積土からなるので、心土を活用して混層耕を行なうことにより増収が期待できる。ところにより疊層が浅く混層が困難となつてゐる。

乾燥地で風蝕をうけやすいため、防風林の完備が必要である。

地力を維持増進させるために、有機物の投入、塩基、磷酸の補給も忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積(ha)	実施方法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
混層耕	3.593		硝磷、石灰
塩基、磷酸の補給		石灰、苦土	炭カル、硫酸苦土
有機物の施用		堆肥の使用	

< 屈足保全対策地区 >

(1) 分布状況

町村名	面積(ha)	該当土壌区
新得町、鹿追町	3.740	屈足一屈足、下鹿追一下鹿追、中鹿追一中鹿追 瓜幕一瓜幕、広内西一広内西、屈足北一屈足北

(2) 保全対策地区的特徴と問題点

本対策地区の特徴は、高台地よりの伏流水による湿地であるために幹線明渠および捕水渠が必要である。腐植含量多く、酸性を呈するため酸性矯正を忘れてはならない。

作土は新期の火山灰であるが心土は沖積土よりなる土壌である。乾燥地化したら混層により増収が期待できるが、一部、疊層が近いため制限される。

地力を維持増進させるため、塩基、磷酸の補給が必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積(ha)	実施方法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
幹線明渠および排水渠 酸性矯正 塩基、磷酸の補給	3.740	石灰の施用 石灰、苦土の施用	炭カル、硫酸苦土

<紅葉保全対策地区>

(1) 分布状況

町村名	面積(ha)	該当土壤区
新得町、鹿追町	6.38	紅葉一紅葉

(2) 保全対策区の特徴と問題点

本対策地区の特徴は、作土、心土とも冲積土よりなる土壌である。地力は高い方であるが、更に維持増進させるため、塩基、有機物を補給しつつ深耕を行なう。ところにより砂礫層が浅く出現する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積(ha)	実施方法	対策、資材および機械、器具の種類、型式、数量
深耕 有機物、塩基の補給	6.38	堆肥、石灰、苦土の施用	炭カル、硫酸苦土

土 壤 分 析 成 績

保全対策区	土壌番号	地點位	層深さ cm	標(風乾物中)%	理学性												
					風乾細土中			細土無機物中					土性	現地における理学性 100CC 容中			
					水分%	腐植%	粗砂%	細砂%	砂合計%	シルト%	粘土%	容積重g		固相容積cc	水分容積cc	空氣容積cc	孔隙率%
上幌内	25	1	0~22	0	68	1387	314	234	548	222	231	CL	—	—	—	—	—
		2	22~35	0	99	1396	12.9	19.1	32.0	28.0	40.1	Li C	—	—	—	—	—
		3	35~45	0	8.3	—	7.7	264	34.1	37.2	28.7	Li C	—	—	—	—	—
		4	45~	0	9.3	—	235	33.2	56.7	24.3	19.1	CL	—	—	—	—	—
美蔓	10	1	0~21	0	35	689	45.0	29.8	748	17.4	7.8	SL	—	—	—	—	—
		2	21~27	0	41	8.38	44.0	27.6	71.6	23.8	4.7	SL	—	—	—	—	—
		3	27~43	0	63	5.17	18.4	32.6	51.0	25.6	23.3	CL	—	—	—	—	—
		4	43~54	0	103	6.66	14.1	12.2	26.3	28.7	45.0	Li C	—	—	—	—	—
		5	54~64	0	123	—	14.0	13.2	27.2	31.0	41.7	Li C	—	—	—	—	—
		6	64~86	0	8.5	—	101	12.5	22.6	34.8	42.7	Li C	—	—	—	—	—
北新得	113	1	0~18	0	6.9	7.45	32.0	18.3	503	24.9	24.9	CL	—	—	—	—	—
		2	18~27	0	8.8	4.70	16.2	17.1	33.3	34.5	32.3	Li C	—	—	—	—	—
		3	27~52	0	6.1	—	20.4	18.2	38.6	29.5	31.8	Li C	—	—	—	—	—
		4	52~92	0	6.5	—	34.2	17.1	51.3	28.4	20.2	CL	—	—	—	—	—
蔓東瓜幕	92	1	0~25	0	5.8	7.81	—	—	—	—	—	S CL	—	—	—	—	—
		2	25~37	2.6	6.6	—	12.4	14.1	26.5	39.4	34.0	Li C	—	—	—	—	—
		3	37~51	2.6	8.2	—	12.2	16.8	29.0	37.8	33.0	Li C	—	—	—	—	—
		4	51~77	22.0	6.3	—	55.2	23.5	78.7	12.2	9.2	SL	—	—	—	—	—
南新得	6	1	0~15	0	4.7	9.03	27.1	28.8	5.9	27.5	16.6	CL	—	—	—	—	—
		2	15~18	0	5.2	—	22.6	30.9	53.5	30.5	16.0	CL	—	—	—	—	—
		3	18~29	0	6.1	6.56	9.6	13.8	23.4	26.7	49.9	HC	—	—	—	—	—
		4	29~	2.6	2.6	0	11.6	11.6	23.2	47.1	29.7	SiC	—	—	—	—	—
南新得	101	1	0~13	0	6.1	15.55	38.5	18.4	56.9	23.2	19.8	CL	—	—	—	—	—
		2	13~25	0	8.0	9.92	—	—	—	—	—	CL	—	—	—	—	—

米：触感による

化 學 性												
P H		置換酸度 Y ₁	有機物			塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係數 %	有効態磷酸 mg/100g
H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.64	442	188	8.64	0.69	13	369	3209	93	252	31.1	2000	32
5.60	4.30	388	899	0.64	14	426	1484	104	30.6	125	2320	tr
5.59	4.52	1.38	—	—	—	20.0	734	9.5	265	131	2250	tr
5.73	484	0.63	—	—	—	347	4248	520	55	435	2,170	tr
5.53	472	0.63	414	0.32	13	19.1	2663	6.2	3.1	500	1250	3.3
5.56	480	0.63	5.07	0.34	15	223	365.6	7.0	21	58.4	1,350	tr
5.51	478	0.63	320	0.29	11	17.2	1466	0.0	19	304	1,790	tr
5.58	496	0.50	430	0.38	11	25.6	2793	149	33	39.1	2210	tr
5.68	5.30	0.25	—	—	—	269	2589	115	43	343	2230	tr
5.80	539	0.25	—	—	—	44	167.6	381	94	417	1,930	tr
5.55	485	0.75	464	0.42	11	201	228.9	19.4	143	407	1,960	19
5.65	4.04	0.50	299	0.27	11	182	1762	59	94	343	2230	09
5.86	5.19	0.50	—	—	—	9.5	1165	258	92	438	1,770	tr
6.05	540	0.50	—	—	—	68	74.9	35.9	48	392	1,850	tr
5.92	478	0.63	481	0.42	11	234	2750	162	16.2	418	1,690	17.0
5.95	510	0.50	—	—	—	15.7	1661	29	137	37.4	1,940	0.2
5.91	5.19	0.25	—	—	—	14.4	241.2	403	41	59.8	1,860	tr
6.10	5.44	0.25	—	—	—	7.4	47.9	323	16	23.2	1,450	tr
5.55	4.57	1.00	5.50	0.42	18	261	3039	153	10.3	414	1,680	2.5r
5.69	4.72	0.63	—	—	—	21.4	1960	19.7	.64	325	1,850	tr
5.62	4.39	1.63	4.01	0.31	13	37.0	428.0	58.7	136	421	1,710	tr
5.89	421	1.25	—	—	—	263	2332	228	8.5	31.6	680	tr
6.65	5.72	0.50	9.60	0.63	15	389	1,154.7	121.0	152	105.7	1,770	tr
6.47	5.02	1.00	6.25	0.47	13	305	333.3	88	11.4	388	2,230	tr

保全対策区	土壌番号	地点番号	層位	深さcm	理 学 性														
					礫(風乾物中)%	風乾細土中		細土無機物中					土性	現地における理学性 100°C容中					
						水 分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	合計 %	シルト %	粘土 %		容積重 g	固相容積 CC	水分容積 CC	空気容積 CC	孔隙率 %	
南新得	南新得	101	3	25~32	0	109	1490	19.9	17.7	37.6	37.7	247	C L	—	—	—	—	—	
			4	32~47	0	85	—	162	163	325	35.8	317	L i C	—	—	—	—	—	
北鹿追	北鹿追	67	1	0~13	0	7.4	654	20.7	43.3	64.0	245	11.5	L	—	—	—	—	—	
			2	13~18	0	7.0	899	30.2	18.6	48.8	252	259	L i C	—	—	—	—	—	
			3	18~27	0	8.4	1271	68	6.5	13.3	275	59.2	H C	—	—	—	—	—	
			4	27~32	0	47	414	9.3	6.3	15.6	291	553	H C	—	—	—	—	—	
			5	32~48	0	4.5	—	11.0	19.4	30.4	302	359	L i C	—	—	—	—	—	
鹿追	鹿追	160	1	0~20	0	7.6	15.1	12.13	393.1	514.4	2724	2133	C L	78.2	—	—	—	—	—
			2	20~30	0	12.1	22.9	7.17	19.38	26.55	3952	33.94	L i C	811	—	—	—	—	—
			3	30~48	0	7.8	9.2	6.72	3429	41.01	3843	2055	C L	76.2	—	—	—	—	—
			4	48~84	0	5.6	0	4.09	19.08	23.17	4630	30.53	S i C	98.0	—	—	—	—	—
			5	84~	0	4.6	0	5.54	2943	3497	4195	2309	C L	98.1	—	—	—	—	—
佐明	佐明	78	1	0~20	0	6.5	1318	30.9	27.4	58.3	31.3	106	L	—	—	—	—	—	
			2	20~27	0	6.2	1299	30.7	24.1	54.8	40.7	45	L	—	—	—	—	—	
			3	27~43	0	7.8	14.69	201	20.5	40.6	27.7	316	L i G	—	—	—	—	—	
			4	43~57	0	7.1	7.91	105	17.0	27.5	327	398	L i C	—	—	—	—	—	
			5	57~100	0	7.7	12.61	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
幌幌	幌幌	126	1	0~15	0	7.1	1313	31.2	28.9	601	18.4	214	S C L	—	—	—	—	—	
			2	15~23	0	10.3	1685	82	26.9	35.1	208	43.9	L i C	—	—	—	—	—	
			3	23~38	0	100	9.12	5.4	6.0	114	199	686	H C	—	—	—	—	—	
			4	38~50	0	7.9	633	48	4.5	9.3	258	647	H C	—	—	—	—	—	
			5	50~62	0	7.3	—	32.6	35.0	67.6	19.3	129	S L	—	—	—	—	—	
			6	62~77	0	9.9	—	249	34.0	589	198	210	S C L	—	—	—	—	—	

化 学 性												
P H		置換酸度 Y ₁	有機物			塩基置換容量 me量 /100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係數	有效態磷酸 mg/100g
H ₂ O	KCl		T—C %	T—N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
598	438	3.88	9.69	0.70	14	322	1405	6.7	9.6	15.7	2540	tr
586	449	2.63	—	—	—	188	848	5.1	12.4	16.3	1930	tr
503	428	2.73	4.10	0.77	5	45.5	418.9	19.4	10.3	32.8	1710	6.0
521	444	1.88	5.60	0.53	11	29.3	107.5	1.4	4.1	13.2	2250	0.2
5.08	4.01	11.88	8.05	0.58	14	56.2	319.5	10.3	13.2	20.2	1980	tr
5.38	4.10	5.25	2.52	0.20	13	26.9	291.2	35.2	9.2	38.7	1160	tr
5.71	4.45	1.00	—	—	—	16.9	272.0	68.3	15.3	57.8	930	tr
5.73	4.60	1.48	9.49	0.68	14	325	3926	56.4	14.0	43.1	1620	11.8
5.30	4.32	4.80	15.11	0.79	19	61.2	426.2	64.5	12.0	24.8	2130	6.8
5.60	4.30	4.51	5.77	0.37	15	32.8	263.6	64.5	12.0	28.7	1800	1.7
5.95	4.18	1.89	—	—	—	19.2	2019	120.0	18.0	37.5	940	tr
6.35	4.30	0.95	—	—	—	20.0	1907	1290	18.0	34.0	900	tr
6.50	6.05	0.38	8.17	0.74	11	54.0	220.3	68.3	52.5	145.5	1690	51.5
6.89	6.31	0.50	8.06	0.71	11	53.6	3070.7	2242	55.4	204.2	1620	47.1
6.71	6.39	0.38	9.24	0.81	11	65.3	19420	86.0	37.8	106.0	2100	tr
6.95	5.41	0.38	4.94	0.46	11	43.4	648.7	1063	121.1	53.3	1940	tr
6.60	4.41	1.38	7.93	0.53	15	69.7	774.3	47.4	164.2	39.6	1770	tr
5.33	4.49	1.75	8.19	0.70	12	35.8	488.3	412	43.9	18.7	2570	15.7
5.15	4.10	7.50	10.90	0.94	12	54.2	4117	16.5	31.2	27.2	2130	2.7
4.95	3.99	11.88	5.88	0.53	11	43.3	2939	12.7	31.1	24.1	2130	2.0
5.22	4.00	11.50	3.99	0.31	13	32.8	3045	292	17.4	33.1	1770	0.2
5.29	4.48	2.38	—	—	—	33.2	3903	10.9	6.6	41.8	1880	4.5
5.40	4.55	1.50	—	—	—	39.0	297.7	20.1	6.7	27.4	2320	tr

保全対策区	土壌番号	地点	層位	深さcm	理学性													
					風乾細土中		細土無機物中						土性	現地における理学性 100cc容中				
					種類 (風乾物中%)	水分分率(%)	腐植%	粗砂%	細砂%	合計%	シルト%	粘土%		容積重さ	固相容積cc	水分容積cc	空気容積cc	孔隙率%
笹得川	新103	新得	1	0~22	0	8.0	1639	36.6	25.0	616	21.5	16.5	CL	—	—	—	—	—
			2	22~34	0	11.6	1815	19.9	22.6	425	23.9	33.6	LIC	—	—	—	—	—
			3	34~52	0	14.0	1536	13.0	19.7	327	40.1	27.2	LIC	—	—	—	—	—
			4	52~	0	5.1	—	31.1	28.1	59.2	20.4	20.3	CL	—	—	—	—	—
	47	笹川	1	0~19	0	9.2	1285	27.3	32.8	60.1	22.3	17.6	CL	—	—	—	—	—
			2	19~32	0	4.8	736	27.2	29.4	56.6	25.9	16.8	CL	—	—	—	—	—
			3	32~50	0	4.2	303	27.2	36.9	64.1	22.7	13.2	L	—	—	—	—	—
			4	50~76	0	8.1	573	23.9	29.2	53.1	24.7	22.2	CL	—	—	—	—	—
屈足下鹿追中鹿追瓜幕広内西	38	西瓜幕	1	0~11	2.6	6.2	1057	35.1	21.5	56.6	19.0	24.4	SCL	—	—	—	—	—
			2	11~20	2.6	7.1	—	27.6	36.8	64.4	18.9	16.8	SCL	—	—	—	—	—
		屈足	1	0~18	0	6.8	659	14.4	33.6	48.0	31.4	20.6	CL	—	—	—	—	—
			2	18~30	0	6.6	410	31.6	35.9	67.5	23.4	9.1	SL	—	—	—	—	—
			3	30~41	0	9.0	824	35.3	8.9	44.2	20.9	34.9	LIC	—	—	—	—	—
			4	41~70	2.6	8.0	—	5.7	14.6	20.3	34.2	45.5	HC	—	—	—	—	—
	52	下鹿追	1	0~18	0	6.3	1412	32.7	28.0	60.7	23.5	15.8	CL	—	—	—	—	—
			2	18~35	0	10.4	9.04	13.5	32.2	45.7	25.8	28.4	LIC	—	—	—	—	—
	62	中鹿追	1	0~18	0	5.5	1148	31.7	36.2	67.9	22.4	9.8	SL	—	—	—	—	—
			2	18~27	0	10.7	3436	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	71	瓜幕	1	0~25	0	6.0	1299	25.2	28.4	51.6	27.7	22.0	CL	—	—	—	—	—
			2	25~39	0	7.3	1497	18.4	22.1	40.5	28.7	31.6	LIC	—	—	—	—	—
			3	39~49	0	6.7	9.79	16.2	26.5	42.7	25.3	32.1	LIC	—	—	—	—	—
			4	49~58	0	3.8	330	18.1	34.3	52.4	24.3	23.3	CL	—	—	—	—	—
	159	広内西	1	0~16	0	6.0	1583	47.1	12.8	59.9	18.0	21.8	SCL	—	—	—	—	—
			2	16~40	0	9.0	1899	25.9	10.0	35.9	33.7	30.2	LIC	—	—	—	—	—

化 学 性												
P H		置換 酸 度 Y_1	有機物			塩基 置換 容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰 飽和度 %	磷酸 吸收 係數	有 效 態 磷 酸 mg/ 100g
H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
542	4.37	338	10.33	0.80	13	349	287.5	7.3	33	29.4	2,040	6.7
5.43	4.41	313	11.91	0.94	13	44.0	224.1	9.8	4.0	18.2	2,408	tr
5.41	4.51	238	10.36	0.86	12	45.1	173.9	14.1	4.4	13.7	2,590	tr
5.29	4.40	3.25	—	—	—	20.1	136.0	8.5	3.3	24.1	2,390	2.5
5.22	4.90	0.50	820	0.34	24	44.8	696.7	42.9	5.5	55.5	2,110	tr
5.79	460	0.75	448	0.42	11	239	3,238	10.6	3.3	48.3	1,350	4.6
5.90	464	0.75	184	0.18	10	139	1,513	35	3.2	39.1	1,350	tr
5.84	462	1.00	361	0.36	10	22.0	211.5	37	6.6	34.6	1,680	tr
5.22	450	125	6.53	0.55	12	26.8	298.9	36	33.9	39.8	1,680	5.5
5.79	480	0.63	—	—	—	42.2	713.1	18.6	6.8	60.5	242	6.0
5.71	445	163	4.10	0.45	9	23.5	250.8	9.3	5.7	37.9	1,770	tr
5.23	480	0.38	253	0.25	10	21.0	200.1	25.3	6.4	34.2	2,140	tr
5.89	4.78	0.75	525	0.42	13	19.9	169.5	22	35.3	30.4	1,850	tr
5.70	450	1.25	—	—	—	17.3	119.9	3.7	21.3	25.2	1,850	tr
5.31	429	3.00	87.4	0.68	13	34.1	2,214	14.9	23.0	23.1	1,860	1.5
490	4.13	9.75	5.85	0.85	7	58.3	1,042	0.0	38.8	63.2	2,330	tr
5.30	4.38	16.3	7.05	0.78	9	32.7	4,052	14.5	7.9	44.3	1,350	5.9
5.01	4.02	5.50	223.2	67.2	3	73.2	718.1	85.8	6.9	34.9	—	tr
5.10	4.31	27.5	8.02	0.77	10	37.9	3,729	16.3	10.4	35.1	1,640	7.2
5.05	4.30	45.0	9.37	0.88	11	42.4	2,75.4	138	9.0	23.2	2,020	1.9
5.01	4.30	57.5	6.09	0.50	12	34.3	1,423	5.8	7.6	14.7	2,060	tr
5.15	420	8.88	199	0.18	11	19.4	94.3	126	15.9	17.1	1,200	tr
5.45	419	3.75	9.77	0.71	14	30.9	2,267	19.3	6.9	26.2	1,630	tr
5.31	422	46.3	12.11	0.90	13	38.9	95.5	119	7.1	8.8	2,290	2.4

保全対策区	土壌番号	地點位	層	深さ cm	理学性													
					様 (風乾物中) % 中)	風乾細土中		細土無機物中					土性	現地における理学性 100CC容中				
						水 分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	シルト %	粘土 %		容積重 g	固相容積 CC	水分容積 CC	空氣容積 CC	孔隙率 %
屈足	広内西	159	3	40 ~ 80	0	0.4	10.80	234	18.6	42.0	463	115	SOL	—	—	—	—	—
			4	80 ~	22	5.6	—	19.8	24.0	43.8	323	238	CL	—	—	—	—	—
	屈足北	132	1	0 ~ 28	0	6.1	14.43	437	26.6	70.3	17.2	123	SL	—	—	—	—	—
			2	28 ~ 46	2.6	6.8	11.73	49.9	25.6	75.5	123	12.0	SL	—	—	—	—	—
			3	46 ~ 60	2.6	4.8	5.17	53.6	30.3	83.9	11.3	4.6	LS	—	—	—	—	—
	紅葉	53	1	0 ~ 22	0	1.7	13.2	28.4	5.01	78.5	14.1	7.4	SL	—	—	—	—	—
			2	22 ~ 32	0	1.7	0.90	43.4	44.5	87.9	8.0	4.4	LS	—	—	—	—	—
			3	32 ~ 41	0	0.9	—	7.06	24.3	94.9	2.7	2.3	LS	—	—	—	—	—

化 学 性												
P H		置 換 酸 度 Y 1	有 機 物			鹽基置 換 容 量 me/ 100g	置換性鹽基 mg/100g			石灰 飽 和 度 %	磷酸吸收 係 數 me/100g	有效 態 磷 酸 tr
H ₂ O	KCl		T—C %	T—N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.42	441	263	692	057	12	286	465	742	134	58	2370	tr
5.42	443	238	238	—	—	129	39.6	0.0	12.0	10.7	1680	tr
5.30	453	163	891	0.72	12	326	413.1	18.6	18.1	45.1	1850	4.0
5.33	442	263	7.30	0.56	13	30.7	197.5	13.0	15.3	23.1	2.060	tr
5.50	452	2.00	3.15	0.27	12	16.0	104.1	6.3	8.6	23.1	1.560	tr
5.51	451	0.63	0.77	0.09	8	108	216.7	11.6	16.6	71.7	462	2.0.3
5.67	4.60	0.50	0.53	0.07	7	103	206.3	4.1	10.8	71.3	616	1.3.8
5.90	505	0.25	—	—	—	4.4	115.0	6.8	8.1	93.2	390	tr